

2019 年度
小学校外国語活動
年間指導計画
指導案例集

第5学年

单元1～单元8

2019 年 3 月
那霸市教育委員会

実施月	時間	単元名 時間数	指導目標	主な表現	主な語彙	主な教材
4月	1	[単元1] Hello! ①	【コ】積極的に挨拶をしようとする。 【慣】英語での挨拶や、自分名前言い方に慣れ親しむ。 【気】世界には様々な言語があることを知る。	Hello, My name is ~. What's your name? Nice to meet you. Thank you. Goodbye.		『Hi, friends! 1』 Lesson1 Hello! 『We Can! 1』 Unit1 Hello, everyone.
	2		【気】日本語と英語の音声やリズムの違いに気付く。			
5月	3	[単元2] Hello, everyone ④	【慣】好きなものや欲しいものなどを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。	Hello, I'm (Saki) Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? I like / don't like ~. What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).	class, badminton, chocolate, lettuce, name, animal, watch, think	『We Can! 1』 Unit1 Hello, everyone.
	4		【慣】好きなものや欲しいものなどを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。			
	5		【コ】進んで、簡単な自己紹介をしようとする。			
6月	6	[単元3] How many? ②	【慣】1～20の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 【気】言語には、それぞれ特色があることに気付く。	How many pencils? Five pencils.	身の周りのもの (cat, dog, pencil, apple) 数字 (one, two, three, ... twenty)	『Hi, friends! 1』 Lesson3 How many?
	7		【コ】進んで、数を数えたり、尋ねたりしようとする。			
	8	[単元4] What do you like? ④	【慣】色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語の音の違いに気付く。	What do you like? What animal / color / fruit / sport do you like? I like rabbits / red / banana / soccer	色 (red, blue, yellow, pink, green, orange, purple, black, white) 形 (heart, star, circle, triangle)	『Hi, friends! 1』 Lesson5 What do you like? 『We Can! 1』 Unit1 Hello, everyone.
	9		【コ】進んで、好きなものについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。			
7月	10	[単元5] Alphabet ④	【気】身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付く。 【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。			
	11		【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have ~. Do you have (a/b)? Yes, I do / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.	アルファベットの小文字 (a～z)	『Hi, friends! Plus』 Animal Paradise
	12		【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。【コ】進んで、アルファベットの文字について伝え合おうとする。			
	13		【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。【コ】進んで、アルファベットの文字について伝え合おうとする。			
8～9月	14	[単元6] What's this? ③	【気】日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。		身の回りの物 (triangle, fish, recorder, shoe, notebook, eraser, glove, beaker, bird, textbook, eggplant, brush, mat, bat, cap, ruler, globe, tomato, flying pan, cup, microscope, piano, flower)	
	15		【慣】ある物が何かを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。	What's this? It's a piano.		『Hi, friends! 1』 Lesson7 What's this?
	16		【コ】進んで、ある物についてそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。			
	17	[単元7] When is your birthday? ④	【気】世界には、様々な祭りや行事があることに気付く。【慣】活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。	When is your birthday? My birthday is (May 7th). What (sport) do you like? Do you like (soccer)? Yes, I do / No, I don't. Do you want (new soccer shoes)? What do you want for your birthday? I want a (dog). This is for you. Thank you. You're welcome. Happy birthday!	月 (January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December) 序数 (1st, 2nd, ... 31st) 季節 (spring, summer, autumn / fall, winter)	『We Can! 1』 Unit2 When is your birthday?
	18		【慣】月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。			
	19		【慣】月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。			
	20		【コ】進んで、誕生日を尋ねたり答えたりしようとする。【慣】活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。			
10月	21	[単元8] What do you have on Monday? ⑤	【気】曜日や教科などの言い方を知る。			
	22		【慣】【気】曜日や教科などの言い方に慣れ親しむと共に外国の小学校と日本の小学校の共通点や相違点を知る。		教科など (Japanese, English, math, social studies, science, music, P.E., arts and crafts, home economics, calligraphy)	『Hi, friends! 1』 Lesson8 I study Japanese. 『We Can! 1』 Unit3 What do you have on Monday?
	23		【コ】【気】時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。また、外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る。	I study ~ on ~. I have ~ on ~. What do you have on ~?		
	24		【コ】夢の時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。			
	25		【コ】【慣】自分の夢とそのための時間割について考え、積極的に尋ねたり答えたりする。			

11月	26		【慣】時刻の言い方や日課の表現の仕方を知る。			
	27	[単元9] What time do you get up? ④	【コ】頻度や日課を聞いたり言ったりしようとする。	What time do you (get up)? I (usually)(get up) at (7:00).	always/usually/never / sometimes/at 手伝い(wash the dishes/set the table/walk my dog/ clean my room/get the newspaper)	『We Can!1』 Unit4 What time do you get up ?
	28		【コ】【慣】一日の生活についてまとまりのある話を聞いておおよその内容をとらえることができる。			
	29		【慣】【気】日課を表す表現に親しみ、世界の子どもの日課について知る。			
12月	30	[単元10] She can run fast. He can jump high. ⑤	【気】動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。	Can you(sing well?) Yes, I can./No, I can't. [I /You/He/She][can/c an't](sing well).	動作 (play[soccer/bad minton/table tennis/volleyball/ shogi/ endgame/the recorder/the piano],do[kendo /judo],ride a[bicycle/unicycle],swim,skate,ski,cook,run fast,jump high,sing well),can,can't,he,she	『We Can!1』 Unit5 She can run fast. He can jump high.
	31		【慣】動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。			
	32		【慣】できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、自分ができていることを考える。			
	33		【コ】【慣】自分ができていることを考え、友達と積極的に交流しようとするとともに、他者ができていることについて紹介する表現を知る。			
1月	34	[単元11] Where is the treasure? ④	【慣】他者ができていることについて紹介する表現に慣れ親しむ。	Where is treasure? Go straight(for three blocks). Turn[right/left](at the third corner). You can see it on [right/left]. It's[on/in/under/by](the desk).	身の回りの物 (cap,cup,basket,scissors,box),施設・建物 (station,fire station,gas station,police station,post office,hospital,supermarket,convenience store,department store,bookstore,park),treasure,block,in,under,by,corner	『We Can!1』 Unit7 Where is treasure?
	35		【慣】道案内や物の位置を尋ねたり答えたりする表現に触れる。活字体の小文字を読んだり書いたりすることに触れる。			
	36		【慣】部屋の中の物についての説明や部屋の様子を聞いて、位置関係を表す表現に慣れ親しむ。			
	37		【気】日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気づく。			
2月	38	[単元12] What would you like? ⑦	【コ】進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。	What would you like? I'd like a hamburger.	食べ物・料理 (hamburger,omelet ,hamburger steak,cake,spaghetti,hotdog,pizza,ice cream,yogurt,pudding,orange juice,parfait,sushi,sausages,fried chicken,green tea,natto,miso soup,rice, bread,French fries)	『Hi,frends!1』 Lesson9 What would you like? 『We Can!1』 Unit8 What would you like?
	39		【気】丁寧な言い方でほしいものを尋ねたり言ったりする表現を知る。			
	40		【慣】丁寧な言い方でほしいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。			
	41		【慣】【気】世界には様々な料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。			
3月	42	[単元13] Who is your hero? ⑤	【コ】相手意識を持って、丁寧な言い方でほしいものを尋ねたり答えたりしようとする。	Who is your hero? This is my hero. [He/She]can(cook well) [He/She]is(kind). Can[you/he/she]play baseball well)? [He/She]is(cool).	hero,so,because,気持ちや状態を表す語 (active,cool,fantastic,friendly,gentle,kind,brave,strong,tough)	『We Can!1』 Unit9 Who is your hero?
	43		【コ】【慣】レストランでの注文の仕方や値段の聞き方の表現に慣れ親しみ、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。			
	44		【コ】【慣】誰かのために目的を意識したメニューを作ることができる。			
	45		【慣】自分の考えたスペシャルメニューを発表することができる。			
3月	46	[単元13] Who is your hero? ⑤	【コ】得意なことや表現の仕方がわかり、伝え合おうとする。	Who is your hero? This is my hero. [He/She]can(cook well) [He/She]is(kind). Can[you/he/she]play baseball well)? [He/She]is(cool).	hero,so,because,気持ちや状態を表す語 (active,cool,fantastic,friendly,gentle,kind,brave,strong,tough)	『We Can!1』 Unit9 Who is your hero?
	47		【コ】【慣】第三者の得意なことや得意なことを聞いたり言ったりできる。			
	48		【コ】【慣】自分や第三者の得意なことや得意なことについて、聞いたり言ったりすることができる。			
	49		【慣】あこがれの人の話を聞き、その人の得意なことや得意なことがわかる。			
3月	50	[単元13] Who is your hero? ⑤	【コ】他者に配慮しながら、自分のあこがれの人のことについて、自分の意見を含めて伝えようとしている。	Who is your hero? This is my hero. [He/She]can(cook well) [He/She]is(kind). Can[you/he/she]play baseball well)? [He/She]is(cool).	hero,so,because,気持ちや状態を表す語 (active,cool,fantastic,friendly,gentle,kind,brave,strong,tough)	『We Can!1』 Unit9 Who is your hero?

5学年一単元 1

Hello!

単元目標

- ・積極的に挨拶をしようとする。
- ・英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。
- ・世界には様々な言語があることを知る。

評価規順

- ・本単元では、児童がはじめて外国語に出会うことから、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。

表現

Hello. My name is ～. What's your name? Thank you. Goodbye.

単元計画（1時間）

時	目標と主な活動	評		
		こ	慣	気
1	英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。 ○「どんなことを勉強するのかな。」表紙を見て、どのような場面かを想像して発表する。 【Lesson 1】誌面 p.2,3 を見て、知っている英語を言う。音声教材を聞いて、登場人物の名前と挨拶の表現を知る。（ ）に名前を記入する。 ○「あいさつをしよう。」友達と挨拶をし、名前を言う。 【Let's chant】"Hello!" 【Let's play】名刺を作る。 【Activity】教室内を歩いて回り、出会った友達と挨拶をし、名刺を交換する。			本時では、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。

5 学年－単元 1

Hello!

単元目標

- ・積極的に挨拶をしようとする。
- ・英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。
- ・世界には様々な言語があることを知る。

評価規順

- ・本単元では、児童がはじめて外国語に出会うことから、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。

表現

Hello. My name is ～. What's your name? Thank you. Goodbye.

単元計画（1 時間）

時	目標と主な活動	評		
		こ	慣	気
1	英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。 ○「どんなことを勉強するのかな。」表紙を見て、どのような場面かを想像して発表する。 【Lesson 1】誌面 p.2,3 を見て、知っている英語を言う。音声教材を聞いて、登場人物の名前と挨拶の表現を知る。（ ）に名前を記入する。 ○「あいさつをしよう。」友達と挨拶をし、名前を言う。 【Let' s chant】"Hello!" 【Let' s play】名刺を作る。 【Activity】教室内を歩いて回り、出会った友達と挨拶をし、名刺を交換する。			本時では、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。

5 学年一単元 2

Hello, everyone

- 単元目標**
- ・進んで、簡単な自己紹介をしようとする。
 - ・好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の文字に慣れ親しむ
 - ・日本語と英語の音声やリズムの違いに気付く。
- 評価規順**
- ・先生や友だちと好きな色や食べ物などについて伝え合ったり、尋ねたり、答えたりする。
 - ・What ~ do you like? という表現を使いながら、先生や友達の好きな色や食べ物などについて、聞いたり言ったりすることができる。
 - ・この単元で学習した表現を使って積極的に自己紹介を行なおうとしている。
- 表現**
- Hello, I' m (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell it?
 K-o-s-e-i. I [like / don' t like] (blue). What (sport) do you like?
 I like (soccer) very much. I have (old balls). I want (a new ball).

単元計画（4時間）

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準＜方法＞
1	◆日本語と英語の音声やリズムの違いに気付く。 ○「Small Talk」 ○【Let' s Watch and Think 1】 ・映像を見て、世界で活やくする日本人について知る。また、日本で英語が使われている場面を見える。 ○【Let' s Sing】 “ABC Song”			○	日本語と英語の音声やリズムの違いに気付いている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
2	◆好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【Let' s Listen 1】 *再度聞く ・登場人物がどのようなものが好きかを聞いて、線で結ぶ。 ○【Let' s Play 1】 ・先生の好きなものを予想してたずね、表に書く。 ○【Let' s Play 2】 ・友だちの好きなものを予想してたずね合い、表に書く。 ○【Let' s Sing】 “ABC Song”			○	好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりしている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
3	◆好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【Let' s Listen 2】 ・登場人物と名前を線で結び、好きなものを聞いて、□に書く ○【Let' s Play 3】 ・友だちの好きな色・食べ物・テレビ番組を尋ねあい、わかったことを表に書く。 ○「だれの名前かな？」 ○「名前を書く練習をしよう。」			○	好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりしている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉

4	◆楽しんで自己紹介をし合おう。 ○「Small Talk」 ○【Let's Watch and Think 2】 ・映像を見て，登場人物の好きなこと，ほしいもの，持っているものなど，わかったことを空らんへに書こう。 【Let's Listen 1】＊再度聞く 「自己紹介をしよう。」 【STORY TIME】				自己紹介を通して、友だちと積極的に交流を楽しんでいる。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
---	---	--	--	--	--

5年－単元2

Hello, everyone 1/4 時間

目 標 英語は、様々な場面で使われていることを知ろう。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（登場人物）、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備
○「あいさつをしよう。」 ・指導者と挨拶をする。 ・友達と挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・周りの友達と挨拶をするよう告げる。	
【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p.12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
【Let's Watch and Think 1】 ・映像を見て、世界で活躍する日本人について知る。また、日本で英語が使われている場面を見てみる。 ★映像資料を視聴して、わかったことを発表する。 ★身の回りで外国語が使われている場面を想起する。	・指導者は、児童と映像資料を視聴しながら聞き取れたことや繰り返し出てきた表現などについて確認する。 ※児童の実態に応じて、何度か止めて内容を確認するとよい。 ・早いスピードの英語でも聞き取れる言葉があったことを、十分褒める。	デジタル教材
【Let's Sing】"ABC Song"	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
○「名前を書く練習をしよう。」 ・ワークシート（5年 Unit 1-1, 1-2）を使って活字体で名前を書く練習をする。	・児童の実態に合わせ、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度で良かったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：興味をもって、英語が使われている場面を想像したりしている。

〈行動観察・振り返りカード点検〉

5年ー単元2

Hello, everyone 2/4 時間

目 標 好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（登場人物）、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○「あいさつをしよう。」 ・指導者と挨拶をする。 ・友達と挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童と挨拶をする。 ・周りの友達と挨拶をするよう告げる。	
○【Small Talk】	Small Talk：好きな食べ物（例） Hello. What food do you like? I like curry and rice very much.（写真を見せながら）Do you like curry and rice?（手とあげてみせ、挙手させる）I cook curry. I am good at cooking it. My chicken curry is very special. What do you have in your curry? I have onions, carrots, potatoes and chicken. I have tomatoes and apples, too. It's delicious. Do you like chicken curry?	
○【Let's Sing】 ・“ABC Song”	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
○【Let's Listen 1】 ・登場人物がどのようなものが好きかを聞いて、線で結ぼう。 ・センテンスで止めて、繰り返す。	・最初は一人の情報を聞き取り、一度全員で答えを確認し、やり方を理解させた上で進める。 ・児童の実態に合わせて、何度も止めたり繰り返して聞かせたりするなど、聞かせ方を工夫する。	デジタル教材
○【Let's Play1】 ・先生の好きなものを予想してたずね、表に書く。	・児童は、指導者の好きなもの（色、食べ物、テレビ番組、スポーツ）について予想し、誌面に記入する。日頃の指導者の様子から児童は様々に予想し、その予想が当たっているかどうかを知るために質問をするという必然性を作る。 ・全員で指導者に“What do you like?”と質問を繰り返し、指導者は“I like ～”で答える。	
○【Let's Play2】 ・友だちの好きなものを予想してたずね合い、表に書く。	・児童は、友だちの好きなもの（色、食べ物、テレビ番組、スポーツ）について予想し、紙面に記入する。日頃の友だちの様子から児童は様々に予想し、その予想が当たっているかどうかを知るために質問をするという必然性を作る。 ・友だちに“What do you like?”と質問を繰り返し、尋ねられた児童は、“I like ～”で答える。	
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりしている。

（行動観察・振り返りカード点検）

5年一単元2

Hello, everyone 3/4 時間

目 標 好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（登場人物）、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○「あいさつをしよう。」 ・指導者と挨拶をする。 ・友達と挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童と挨拶をする。 ・周りの友達と挨拶をするよう告げる。	
○【Small Talk】	Small Talk：好きなスポーツ（例） Hello. What sport do you like? I like tennis very much. I like Nishikori Kei. (写真を見せながら) I like baseball too. (野球が好きだと思われる児童を指名し) Do you like baseball? Who likes soccer? (手をあげてみせ、挙手させる) I watch tennis tournaments on TV. I watch baseball games on TV, too. Hanshin Tigers is my favorite team. I sometimes play baseball (野球とするジェスチャーを見せながら) on weekends	
○【Let's Sing】 ・“ABC Song”	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
○【Let's Listen 2】 ・登場人物と名前を線で結び、好きなものを聞いて、□に書く。	・まとまりのある話を聞き、情報を書きとめる活動のため、児童によって差が出ることが考えられる。学級の実態によって、全体を通して聞いたあと、全員で聞こえた情報を一度確認したり、「次は名前を聞き取ってみよう」、さらに「一つでいいのでか書いてみよう」などと言葉かけしながら複数回きかせるなど、丁寧に段階を踏んだ活動にする。	デジタル教材
○【Let's Play 3】 ・友だちの好きな色・食べ物・テレビ番組をたずね合い、わかったことを表に書く。	・4人の友だちにインタビューさせる。 ・インタビューの前に絵カードなどで示しながら、事前に「クラスの一番人気は？」と予想させることで、自分の予想が合っているかを確かめるためにインタビューをするという目的が生まれる。そうすることで、相手の答えにさらに興味をもち、積極的にインタビューをすることにつながる。 ・終了後、自分がインタビューした結果から再び一番人気を推測させて、そのあと、挙手でその人数を確認するのもよい。	
○「名前を書く練習をしよう。」 ・ワークシート（5年Unit 1-1, 1-2）を使って活字体で名前を書く練習をする。	・児童の実態に合わせ、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：好きなもの、欲しいものなどを表したり尋ねたり答えたりしようとしている。

〈行動観察・振り返りカード点検〉

5年一単元2

Hello, everyone 4/4 時間

目 標 活字体の文字に慣れ親しむとともに、進んで簡単な自己紹介をしようとする。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（登場人物）、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○「あいさつをしよう。」 ・指導者と挨拶をする。 ・友達と挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童と挨拶をする。 ・周りの友達と挨拶をするよう告げる。	
○【Small Talk】	Small Talk:自己紹介（例） Hello, everyone. My name is Tanaka Yumi. I live in Sakura-cho. I like badminton very much. Do you like badminton? I have a cat. Her name is Taiga. Very cute. I like cats very much. Do you like cats?	
○【Let's Sing】 ・“ABC Song”	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
○【Let's Watch and Think 2】 ・映像を見て、登場人物の好きなこと、ほしいもの、持っているものなど、わかったことを空らんにかく。	・会話の内容は、既習表現を活用しているだけであるが、二人が互いに質問し相手が答えたことをもとにさらに会話を進めており、その会話から必要な情報を聞き取って誌面に書く活動である。そのため、音声による情報だけでは理解しにくいことから、表情やジェスチャーの大切さも感じ取らせたい。 ・一人ずつの発話を確認し、答え合わせでは動画と一緒に言わせると良い。	デジタル教材
○【Let's Listen 1】 *再度聞く	・最初は一人の情報を聞き取り、一度全員で答えを確認し、やり方を理解させた上で進める。 ・児童の実態に合わせて、何度も止めたり繰り返して聞かせたりするなど、聞かせ方を工夫する。	デジタル教材
○「自己紹介をしよう。」 ・好きなものやほしいものを□に書いて、自己紹介をする。	・児童に、テキストの誌面を使って伝えたい情報を整理させる。 ・これを伝えたいという情報を選んで良いことにする。また、数文でもしっかり相手意識をもって伝えればよいことを伝える。 ・聞き手も積極的に参加するよう指導する。例えば、Hello!と発表者がスタートするのに対して、Hello!と全員が返すなどするとよい。 ・ここでは、スピーチの形をとる。そのため、挨拶→名前→好きなものやこと・欲しいものなどを言う→挨拶という流れをとるが、この流れが初めてであることから、児童用テキスト8ページを実物投影機で示しながら発表する、あるいは、この誌面をもとにポスターを作成して見せながら発表するなど、児童の実態に応じて工夫をすることがたいせつである。	
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：自己紹介を通して、友だちと積極的に交流を楽しんでいる。（行動観察・振り返りカード点検）

5 学年 単元 3 How many?

- 単元目標
- ・積極的に数を数えたり，尋ねたりしようとする。
 - ・1～60 の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。
 - ・言語には，それぞれの特色があることを知る。
- 単元評価規準
- ・進んで数を数えたり，尋ねたりしている。
 - ・1～60 の数や数を尋ねる表現を聞いたり，言ったりしている。

表現 How many pencils? Five pencils.

cat, dog, ball, pencil, apple, one, two, three, ..., twenty, forty, fifty, sixty

単元計画（2時間）

時	目標と主な活動	評価		
		こ	慣	気
1	英語でのものの数え方の特色を知り，1～10（実態に応じて60まで）の数の言い方に慣れ親しむ。 ○【Let' s Play1】 ・指導者と英語でじゃんけんをし，誌面の表に，勝ったら○，負けたら×，あいこなら△を書き，○の数を数える。2回目は友達と英語でじゃんけんをし，勝った数を1回目と合わせて数える。 ○【Let' s Listen】 ・音声教材で1～10の数を聞いて，それがどこの国の言葉かを考える。 【Let' s Play 2】 ・誌面の絵を見て，鉛筆，車，犬，猫，りんごなどの数を数える。 ○【Let' s Chants】“How many balls?” ○「ビンゴゲーム」			○
2	1～20（実態に応じて60まで）の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 ○【Let' s Chant】“How many balls?” ○【Activity1】 ・誌面の絵を1分間見て閉じ，果物や動物の数を予想して言う。実際に数える。 ○【Activity2】 ・誌面のかごのりんごの色を塗り，自分の持つりんごの数を決める。友達とりんごの数を尋ね合い，同じりんごの数を持った仲間を見つける。 ・積極的に数を数えたり，尋ねたりしようとする。 ○【Activity2】 ・グループで数に関するクイズを作る。 ○「クイズに答えよう。」 ・作成したクイズをグループで出し合い，尋ねたり答えたりする。		○	○

評価規準＜方法＞

言語にはそれぞれの特色があることに気づいている。
＜行動観察・振り返りカード点検＞

1～20の数を聞いたり，言ったりしている。
＜行動観察・振り返りカード点検＞

知りたい数を尋ねている。
＜行動観察・振り返りカード点検＞

5年-単元3（第1時） Hi, friends! 1 How many? 1/2 時間

目標 英語でものの数え方の特色を知り、1～10(実態に応じて60まで)の数の言い方に慣れ親しむ。
準備 教師用絵カード、デジタル教材（振り返りカード）

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRTとALTあるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』p.12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【Let's Play 1】 ・じゃんけんゲームをする。指導者と英語でじゃんけんをし、英語での1～10の言い方を知る。 ・誌面の表上段に勝ったら○、負けたら×、あいこなら△を書き、○の数を数える。 ・2回目は友達と英語でじゃんけんをし、勝った数を1回目と合わせて数える。	・英語でじゃんけんを10回行い、指導者に勝った数を数えさせ、英語での1～10の数の言い方を紹介する。 ・10人の友達と英語でじゃんけんを10回行い、友達に勝った数を数えさせ、英語での11～20の数の言い方を紹介する。	デジタル教材
○【Let's Listen】 ・音声教材を聞いて、どこ国の数え方か考える。	・日本語、英語、スペイン語、フランス語、韓国語、中国語での1～10の言い方を聞かせ、どこ国の数え方か尋ねる。 ・日本語、韓国語、中国語の「3」に注目させる。	デジタル教材
○【Let's Play 2】 ・誌面にある絵を見て、鉛筆などがいくつあるか数える。	・How many pencils/dogs/cats/cars/apples? などと尋ね、児童と一緒にそれらの数を数える。 ・児童の身の回りの物を数えるよう呼びかける。 ・英語では、複数のものはものの後に[s]などの音がついていることに気付かせる。 ・日本語では、物によって単位（助数詞）が違うことに気付かせる。（鉛筆1本、犬・猫1匹、車1台、りんご1個）	デジタル教材
○【Let's Chant】“How many balls?” ・音声教材を聞き、絵カードを見ながら言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	教師用絵カード（チャンツ用） デジタル教材
○ビンゴゲームをする。 ・ビンゴカードを用いて、ビンゴゲームを行う。 ・出てきた数字を全員で言ってから、カードをめくる。	・出てきた数字を、児童に言わせる。 ・特に12と20の言い方の違いを意識させる。	ビンゴカード ビンゴマシン
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：言語にはそれぞれの特色があることに気づいている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年—単元 3（第 2 時） Hi, friends! 1 How many? 2/2 時間

目標 1～20（実態に応じて 60 まで）の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。

準備 教師用絵カード、デジタル教材（振り返りカード）

児童の活動	指導者の活動	準備
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) * 内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
【Let's Chant】“How many balls?” ・絵カードを見ながら全員で言う。 ・ボールや動物を別のものに替えたり、数を別の数に替えたりして言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。 ・児童の実態に応じて、ボールや動物を別のものに替えたり、数を別の数に替えたりする。	教師用絵カード（チャンツ用） デジタル教材
○【Activity 1】 ・誌面の絵を 1 分間見て閉じる。 ・絵にあった果物や動物について、指導者の質問に対して数を答える。 ・答えを確かめるために、再度絵を見て数を数える。	・活動の内容を説明する前に、児童に p.12 の絵をじっくり見させた後、絵を隠させ How many ～? と尋ねる。 ・児童が数を答えた後に、絵を見させて一緒に数を数える。 ・次時にも同じ絵を使ったクイズをするので、全てを尋ねずに 4, 5 種類程度を扱う。	
○【Activity 2】 ・自分が持つりんごの数を決めて、誌面のかごのりんごに色をぬる。 ・冊子を持ち、How many apples? Twelve (apples). などとりんごの数を尋ね合いながら、自分と同じ数のりんごを持った友達を探す。 ・誌面の表に同じ数の友達の名前を書く。	・1～20 の中で好きな数のりんごに色をぬらせる。 ・自分と同じ数のりんごを持った友達を見つけたら、誌面の表に名前を書くように告げる。 ・最後に、How many friends? と尋ね、見つけた友達の数を尋ねて答えさせる。	
○「クイズに答えよう。」 ・グループやペアの代表者が出題者となりほかのグループやペアにクイズを出す。 ・代表者以外はほかのグループやペアのクイズに答える解答者になる。 ・How many ～? Eleven (dogs). などの表現を使って尋ねたり答えたりする。 ・出題者を交替して繰り返す。	・代表者を決めさせ、作ったクイズをほかのグループやペアに出題させる。 ・How many ～? Eleven (dogs). などの表現を使ってクイズの出し合いをさせる。 ・代表者を交替させながら、全員が必ず出題するようにさせる。 ・解答者についても、特定の児童だけが答えるのではなくて、交替で答えさせるようにして、一人一人が英語を使う機会をもてるように配慮する。	児童が作成したクイズ
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：自ら相手を見つけて数を尋ねたり、答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

- 単元目標
- ・好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
 - ・色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。
 - ・日本語と英語の音の違いに気付く。

- 単元評価規準
- ・好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしている。
 - ・色や形を聞いたり言ったりしている。
 - ・好きなものは何かを尋ねたり答えたりしている。
 - ・日本語と英語の音の違いに気付いている。

表現 What do you like? What animal/color/fruit/sport do you like? I like rabbits/red/bananas/soccer

単元計画（2時間）

時	目標と主な活動	評価		
		コ	慣	気
1	日本語と英語の音の違いに気づき、色や形の言い方を知る ○【Small Talk】 ○【Let's Chant】 ・ “What color do you like?” ○「色を探そう。」 ○【Let's Listen1】 ・何番の T シャツか考えよう。 ○【Let's Listen2】 ・だれが何番の T シャツが好きか、○に番号を書こう。 ○「ラッキーカードゲーム」		○	日本語と英語の音の違いに気付いている。
2	色や形の言い方や、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ○【Small Talk】 ○【Let's Chant】 ・ “What color do you like?” ○【Let's Listen3】 ・さくらとたくの T シャツは何番か、考えよう。 ○【Let's Play】 ・友だちに T シャツを作ろう。 ○「カテゴリー分け」 ・絵カードを、カテゴリーで分けよう。 ○「文字を書く練習をしよう」		○	色や形を聞いている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞ 好きなものは何かを尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年一単元 4	What do you like? 1 / 2 時間
目標	日本語と英語の音の違いに気付き、色や形の言い方を知る
準備	児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・指導者と児童で簡単な会話をする。 ※「We Can! 1 指導編」p12 参照	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【Let's Chant】“What color do you like?” ・音声教材を聞き、教師用絵カードを見ながら言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	教師用絵カード (チャンツ用) デジタル教材
○「色を探そう。」 ・指導書の着ている衣類の紹介から、英語での色の言い方を知る。 ・指導者が言う色を、身の回りから探す。	・指導者の着ている衣類の色を題材に、英語での色の言い方を紹介する。	教師用絵カード (色形)
○【Let's Listen 1】 ・誌面の絵を見て、どのようなTシャツがあるか、どのTシャツが好きか答える。 ・音声教材を聞いて、該当するTシャツを答える。	・誌面にどのようなTシャツがあるか尋ねる。 また、どのTシャツが好きか尋ねる。 ・音声教材を聞かせ、該当するTシャツを尋ねる。	教師用絵カード (Tシャツ) デジタル教材
○【Let's Listen 2】 ・音声教材を聞いて、どの登場人物がどのTシャツが好きか考えて、発表する。○に番号を記入する。	・音声教材を聞かせ、登場人物がどのTシャツが好きか尋ねる。	教師用絵カード (Tシャツ) デジタル教材
○「ラッキーカードゲーム」をする。 (指導編Hi, friends!2 p.31 参照) ・グループで巻末児童用絵カードを2組用意する。	・グループでラッキーカードゲームをすることを告げ、児童には知らせずラッキーカードを1枚決める。 ・児童の様子を見ながら、ある程度の時間で1回目を終え、ラッキーカードを発表する。 ・これを繰り返す。	教師用絵カード (色形) 巻末児童用絵カード (色形)
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：日本語と英語の音の違いに気付いている。〈行動観察・振り返りカード分析〉

5 年一単元 4

What do you like? 2/2 時間

目標 色や形の言い方や、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・指導者と児童で簡単な会話をする。 ※「We Can! 1 指導編」p12 参照	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【Let's Chant】 “What color do you like?” ・音声教材を聞き、教師用絵カードを見ながら言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	教師用絵カード (チャンツ用) デジタル教材
○【Let's Listen 3】 ・誌面の 8 種類の T シャツにどのような模様があるかを答える。 ・音声教材を聞いて、さくらとたくの T シャツは誌面の 8 種類のうちの何番か考えて、発表する。	・誌面の T シャツにどのような模様があるか、どの T シャツが好きかを尋ねる。 ・音声教材を聞かせ、さくらとたくの T シャツは、誌面の 8 種類のうちのどれか尋ねる。	教師用絵カード (T シャツ) デジタル教材
○【Let's Play】 ・ペアになり、友達に好きな色や形を聞いて、友達に T シャツを作る。 ・1 人がワークシートと巻末児童用絵カード(色形)を持ち、相手に好きな色や形を尋ね、相手の好みに合った T シャツを作る。	・指導者があらかじめ作成しておいた T シャツを見せ、どのような模様があるかを説明し、作りたいという意欲を起こさせる。 ・友達に T シャツを作ろうと呼びかけ、各児童にワークシートを配付する。 ・代表児童の T シャツを紹介する。	教師が作成した T シャツ ワークシート (T シャツ台紙シート) 巻末児童用絵カード (色形)
○「カテゴリー分け」 ・教師用絵カードを見て、それが何か言う。 ・どのグループに貼ればいいのか答える。 ・それぞれのグループが何か答える。 ・何が好きかという質問に答える。	・教師用絵カードを児童と確認しながら黒板に「色」「動物」「食べ物」のようにカテゴリーに分けて貼る。 ・途中から、教師用絵カードをどのグループに貼ればいいのか尋ねて貼る。 ・すべて貼り終えたら、それぞれが何のグループか尋ね、What color/animal/food do you like? を使って、何が好きかを尋ねる。	教師用絵カード(果物・食べ物・動物・スポーツ・色形)
○「文字を書く練習をしよう。」 ・ワークシートを使って文字を書く練習をする。	・児童の実態に合わせ、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：①色や形を聞いている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

②好きなものは何かを尋ねたり答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 学年—単元 5

Alphabet (Let's try!を使用)

- 単元目標**
- ・進んで、活字体の文字について尋ねたり答えたりしようとする。
 - ・活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。
 - ・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付く。
- 単元評価規準**
- ・積極的に誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしている。
 - ・英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりしている。
 - ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付いている。
- 表現**
- Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six).
Do you have "a"? Yes, I do./ No. I don't.
That's right. Sorry, try again.

単元計画（4 時間）

時	目標と主な活動	評価			評価規準<方法>
		コ	慣	気	
1	活字体の小文字とその読み方を知る。 ○「Small Talk」 ○【Lee's Watch and Think】 ○【Let's sing】"ABC Song" ○ポインティングゲーム (a～z) ○【LET's Chant】"Alphabet Chant" ○「アルファベットの小文字を書こう。」				○ 様々なものの言い方から日本語と英語の音の違いに気がついている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞
2	活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【Let's sing】"ABC Song" ○【LET's Chant】"Alphabet Chant" ○「What's this?」(a～z) ○【LET's Pray!】アルファベット探しをしよう。 ○「アルファベットの小文字を書こう。」				○ それが何か尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞
3	身の回りには活字体の文字が表されているものがあることに気付くとともに、活字体の文字について尋ねたり答えたりしようとする。 ○「Small Talk」 ○【LET's Chant】"Alphabet Chant" ○【Let's Listen】 ・映像を見て、アルファベットの小文字について知ろう。 ○【Activity1】 ・好きな看板や標識を一つ選んで、その文字について友だちと尋ね合い、相手の選んだものを当てよう。 ○「アルファベットの小文字を書こう。」				○ それが何か尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞
4	進んで、活字体の文字について尋ねたり答えたりしようとする。 ○「Small Talk」 ○【LET's Chant】"Alphabet Chant" ○「ミッシングゲーム」 ○【Activity2】 「好きな色を一つ選んで、その色の文字について友だちと尋ね合い、相手の選んだ色を当てよう。」 ○「アルファベットの小文字を書こう。」				○ 進んで、活字体の文字について尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年一 単元 5 Alphabet 1 / 4 時間 (Let's Try 1 を使用)

目標 活字体の小文字とその読み方を知る。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p.12 参照) * 内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【Let' s Watch and Think】 ・映像資料を視聴し、アルファベットを知る。	・身の回りには、アルファベット大文字、小文字が多く使われていることに気付くとともに、小文字を知ることがねらいである。 ・デジタル教材の他に、校区内にある看板や標示の写真からも小文字を見つける活動が考えられる。	デジタル教材
○【Let' s sing】” ABC Song” ・数回聞き、耳慣れてきたら歌う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「ポインティングゲーム」(a～z)	①指導者がアルファベットを言う。児童はそれを聞いて、各自で誌面 p.22-23 の回りにあるアルファベットの小文字をさし示す。 ②ペアになり、1 つの誌面で行う。さし示した指を残すタイプのポインティングゲームで、多くの小文字をさしているほうが勝ちとなる。 ※2 種類目はどこにアルファベットの大文字があるかが分かっても取れない状況が起き、どの児童も勝つチャンスがある。このようにゲームのやり方にバリエーションをつけて、どの児童も意欲的に参加できる活動を設定することが大事である。	
○【LET' s Chant】” Alphabet Chant” ・数回聞き、耳慣れてきたら言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「アルファベットの小文字を書こう」 ・ワークシート⑤-1	・ここでは、アルファベットの小文字を四線上に正確に書く活動を行う。「アルファベットの文字の書き順は参考に示したもので、決まりはありません。あなたが書きやすいように書きましょう。」と書き方を参考にしながらも、児童が書きやすいように書かせる。	ワークシート⑤-1
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに 記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：様々な物の言い方から、日本語と英語では音が違うことに気付いている。＜行動観察・振り返りカード分析＞

5 年－単元 5 Alphabet 2 / 4 時間 (Let's Try 1 を使用)

目標 活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p.12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【Let' s sing】 “ABC Song” ・みんなで一緒に歌う。	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
○【LET' s Chant】 ” Alphabet Chant” ・みんなで一緒に言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「What' s this?」 (a～z)		
①アルファベットの指導者用カードを少しずつ見せ、どの小文字かを当てさせる。 ②指導は児童に What's this? と尋ね、児童は It's "a" のように答える。 ※少しずつ見せる際に、「上から、下から、右から、左から」と色々な方向から見せる。 ③答えを確認したら、その都度、指導者用カードを黒板に貼る。		
○【LET' s Pray1】 ・誌面にある街のイラストからアルファベットの小文字を探して発表する。	・ここでは、児童が実際に身の回りで目にする文字は、活字体とは限らないことから、あえて筆記体などで文字をしるしている。 ・また、ここでは、看板や標示の単語を読むことをねらいとはしていない。身の回りにはこのようにアルファベットの文字があることに気付かせるとともに、文字が集まって意味のある語になることに気付かせようにする。	デジタル教材
○「アルファベットの小文字を書こう」 ・ワークシート⑤－2	・ここでは、アルファベットの小文字を四線上に正確に書く活動を行う。「アルファベットの文字の書き順は参考にしたもので、決まりはありません。あなたが書きやすいように書きましょう。」と書き方を参考にしながらも、児童が書きやすいように書かせる。	ワークシート⑤－2
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。	振り返りカード
○挨拶をする	・挨拶をする。	

評価：それが何か尋ねたり答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年－単元 5 Alphabet 3 / 4 時間 (Let's Try 1 を使用)
目標 身の回りには活字体の文字が表されているものがあることに気付くとともに、活字体の文字について尋ねたり答えたりしようとする。 準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) * 内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【Let's Chant】” Alphabet Chant” ・みんなで一緒に言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○【Let's Listen】 ・音声を聞き、どの看板や標示かを考えて番号を書く。	・小文字の読み方に慣れ親しませることがねらいである。児童の実態に応じて、活動の前に、紙面にある標示の文字を確認しておくことよい。 ・児童の実態に合わせて、この活動に示された五つの標示だけではなく、児童用テキスト 22, 23 ページの街全体で同様の活動をすることも考えられる。	デジタル教材
○【Activity1】 「好きな看板や標示を一つ選んで、その文字について友だちと尋ね合い、相手の選んだものを当てよう」	① 5 つの標示から 1 つ選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手の標示を当てる。 ② Do you have ～? Yes, I do/ No, I don't. のように文字について尋ね合い、標示を当て合う。 ※次時の「アルファベットクイズ大会」の準備物について伝える。	
○「アルファベットの小文字を書こう」 ・ワークシート⑤－3	・ここでは、アルファベットの小文字を四線上に正確に書く活動を行う。「アルファベットの文字の書き順は参考にしたもので、決まりはありません。あなたが書きやすいように書きましょう。」と書き方を参考にしながらも、児童が書きやすいように書かせる。	ワークシート⑤－3
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：ある物について積極的にそれが何か尋ねたり、答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード＞

5年一単元5 Alphabet 4 / 4 時間 (Let's Try 1 を使用)

目標 進んで、活字体の文字について尋ねたり答えたりしようとする。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” Alphabet Chant” ・みんなで一緒に言う。		
○「ミッシングゲーム」		
①黒板の大文字カード並びは a～z の順にする。 ②指導者は児童に目を閉じさせ、黒板にある指導者用カードから一枚取る。児童に目を開かせ、どの大文字カードがなくなったかを当てさせる。		
○【Activity 2】 ・好きな色を一つ選んで、その色の文字について友だちと尋ね合い、相手の選んだ色を当てよう。	・難易度を上げるために、当てる側の質問の回数を 2 回までとするなど、ルールを決めて行うのも工夫である。 ・また、児童用テキスト 18, 19 ページのを使って、この活動をすることも考えられる。	
① 10 色から好きな色を選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手の色を当てる。 ②Do you have ～ ? Yes, I do / No, I don't. のように文字について尋ね合い、色を当て合う。		
○「アルファベットの小文字を書こう」 ・ワークシート④	・ここでは、アルファベットの小文字を四線上に正確に書く活動を行う。「アルファベットの文字の書き順は参考にしたもので、決まりはありません。あなたが書きやすいように書きましょう。」と書き方を参考にしながらも、児童が書きやすいように書かせる。	ワークシート④
○本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：進んで、活字体の文字について尋ねたり答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年一単元 6

What's this? (Hi, friends! 1 を使用)

- 単元目標**
- ・ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり答えたりしようとする。
 - ・ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
 - ・日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気づく。
- 評価規準**
- ・ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり答えたりしている。
 - ・ある物が何かと尋ねたり答えたりしている。
 - ・日本語と英語の音の違いに気付いている。
- 表現** What's this? It's ~.

単元計画（3 時間）

時	目標と主な活動	評価		
		コ	慣	気
1	様々な物の言い方から、言葉の面白さに気づくとともに、身の回りの物を表す語に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” What' s this?” ○【Let' s Listen】 ・下の絵は何か、考えよう ○【Activity】 ・クイズ大会をしよう。 ① シルエットクイズ ② 漢字クイズ ③ スリーヒントクイズ ④ パズルクイズ ○「アルファベットの小文字を書こう」			○ 様々なものの言い方から日本語と英語の音の違いに気付いている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞
2	ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” What' s this?” ○「ブラックボックスクイズ」 ○「背中の絵は何？」 ○「クイズ大会をしよう」 ○「アルファベット文字当て 懐中電灯」 ○「アルファベットの小文字を書こう」		○	それが何か尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返り カード点検＞
3	ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり答えたりしようとする。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” What' s this?” ○「クイズ大会をしよう」 ○「アルファベット文字あて 何の文字かな」		○	それが何か尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年一単元 6 What's this? 1 / 3 時間 (Hi, friends! 1 を使用)

目標 様々な物の言い方から、日本語と英語の違いに気づき、身の回りの物を表す語に慣れ親しむ。
準備 絵カード デジタル教材 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) * 内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】 " What' s this? " ・数回聞き、耳慣れてきたら歌う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○【Let's Listen】 ・誌面にある物の一部の絵から、それが何か考える。 ・ある物が何かを尋ねる言い方とある物の英語での言い方を知る。	・教師用絵カードの一部を見せて、What's this? と尋ねる。 ・外来語と英語の音の違いに気づかせるようにする。 ※評価 ・a と a n の使い分けについては、特に指導はしないが、指導者が使い分けて言うことで、児童に繰り返し聞かせるようにする。	絵カード デジタル教材
○【Activity】 ・クイズ大会をしよう。	① シルエットクイズ ・教師用絵カードやデジタル教材でシルエットを見せて、それが何かを尋ねる。 ② 漢字クイズ ・教師用絵カードやデジタル教材で漢字を見せる。漢字を何と読むか、また、英語では何というか予想させる。 ③ スリーヒントクイズ ・指導者はこれまでに紹介した様々なものの英語での言い方を確認しながら、それらの絵カードを「スポーツ・野菜・果物」と分けながら黒板に貼る。児童に各グループが sport, vegetable, fruit であることを確認する。 ・指導者が貼った絵カードの単語 1 つについて 3 つのヒントを出す。2 つのヒントで最初の予想を紙面に記入させ、3 つ目のヒントで答えを記入させる。慣れてきたら児童にヒントを出させる。 ④ パズルクイズ ・パズルクイズ教師用絵カード (パズル) の絵が、何というアルファベットか尋ね、アルファベットからできる言葉を考えさせる。	
○「文字を書く練習をしよう。」 ・ワークシートを使って文字を書く練習をする。	・児童の実態に合わせ、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：様々な物の言い方から、日本語と英語では音が違うことに気付いている。＜行動観察・振り返りカード分析＞

5年一単元6 What's this? 2 / 3時間 (Hi, friends! 1 を使用)

目標 ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

準備 絵カード ブラックボックス 当てる物 デジタル教材 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をします。 『We Can 1 指導編』 p.12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” What' s this? ” ・数回聞き、耳慣れてきたら歌う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「ブラックボックスクイズをする」		
①ブラックボックスの中に、当てる物を入れる。 ②代表児童がその中に手を入れ、物に触って、それが何かを当てる。 ③他の児童は、What's this? と尋ねる。 ④代表児童は、分からないときは、Hint, please. とヒントを求める。わかったら、It's ~. と答える。		
	・デモンストレーションを行い、進め方を確認する。 ※ブラックボックスをいくつか用意できれば、多くの児童が挑戦できてよい。	ブラックボックス 当てる物
○「背中の絵は何? ゲームをする」	・デモンストレーションを行い、進め方を確認する。	
①ペアをつくる。 ②既習表現の絵カードの中から、相手に分からないように背中に貼る。 ③合図とともに歩き回り、出会った友だちに”What's this ? Hint, please. と言って、ヒントを手がかりに自分の背中のカードが何かを当てる。 ④当たったら、指導者に報告する。間違ったら、Thank you. と言って他の児童にヒントを求める。 ⑤早くあがりになった児童には、ほかのカードを与えてクイズを続けさせる。		
○「アルファベット文字あて 懐中電灯」		
●デジタル教材に収載されている「Hi, friends! Plus」を開き、アルファベット文字あてクイズ「懐中電灯」をする。		
○「文字を書く練習をしよう。」 ・ワークシートを使って文字を書く練習をする。	・児童の実態に合わせ、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：それが何か尋ねたり答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞

5年一単元6 What's this? 3 / 3時間 (Hi, friends! 1 を使用)

目標 ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり答えたりしようとする。

準備 クイズ大会に使用する物 デジタル教材

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” What' s this?” ・数回聞き、耳慣れてきたら歌う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「クイズ大会をしよう」 ・各グループごとに、これまでに行ったクイズやほかのクイズから一つ選び、自分たちがクイズ大会をする。	・出題側と解答側に分かれて活動をさせる（途中で交代する）。 ・これまでに慣れ親しんだ表現を積極的に使わせる。	クイズ大会に使用する物)
○「アルファベット文字あて 何の文字かな」		
●デジタル教材に収載されている「Hi, friends! Plus」を開き、アルファベット文字あてクイズ「何の文字かな」をする。		
○「文字を書く練習をしよう。」 ・ワークシートを使って文字を書く練習をする。	・児童の実態に合わせ、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート
・本時の活動をふり返る。 ・挨拶をする。	・児童の態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：ある物について積極的にそれが何か尋ねたり、答えたりしている。＜行動観察・振り返り力

5 年一単元 7

When is your birthday?

- 単元目標**
- ・積極的に誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしようとする。
 - ・英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
 - ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。
- 単元評価規準**
- ・積極的に誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしている。
 - ・英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりしている。
 - ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付いている。

表現 When is your birthday? My birthday is ～

単元計画（4 時間）

時	目標と主な活動	評価			評価規準＜方法＞
		コ	慣	気	
1	世界の様々な行事に興味をもち、月の言い方を知る。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ○【Let' s Listen 1】 ・日本の行事と月を線で結ぼう。 ○【Let' s Play】 ・ポインティングゲーム（月・季節） ○【Let' s Watch and Think 2】 ・世界の行事と月を線で結ぼう。 ○「Sounds and Letters」 ・アルファベットの太文字を書こう。				○ 様々なものの言い方から日本語と英語の音の違いに気がついている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞
2	日にちの言い方を知り、月の言い方に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ○「ミッシングゲーム」 ○「ステレオゲーム」 ○「誕生日の言い方を知ろう。」 ○【Let' s Listen 2】 ・日付と何の日かを書こう。 ○「誕生日を言ってみよう。」 ○「Sounds and Letters」 ・アルファベットの太文字を書こう。				○ 日にちの言い方や月の言い方を知っている。 ＜行動観察振り返り カード点検＞
3	誕生日の尋ね方や答え方に慣れ親しむ。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ○【Let' s Listen 3】 ・誕生日はいつか線で結ぼう。 ○「カレンダービンゴゲーム」 ○「誕生日の友だちをさがそう。」 ○「Sounds and Letters」 ・アルファベットの太文字を書こう。				○ 誕生日の尋ね方や答え方を知っている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞
4	積極的に誕生日を尋ねたり答えたりしようとする。 ○「Small Talk」 ○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ○【Activity 1】 ・友だちの誕生日を調べよう。 ○「バースデーカードを届けよう」 ○【STORY TIME】 ○「Sounds and Letters」 ・アルファベットの太文字を書こう。				○ 積極的に誕生日を尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 年一単元 7 When is your birthday? 1 / 4 時間 (We Can! 1 を使用)

目標 世界の様々な行事に興味をもち、月の言い方を知る。

準備 絵カード デジタル教材

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ・数回聞き、耳慣れてきたら言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「月の名前を言おう。」		
①指導者は、絵カードやデジタル教材で月のイラストや写真を示しながら、1月から12月まで順に月名を言う。児童は指導者が言う月名を聞き、繰り返して言いながらその月の写真(絵カード)を指さす。 ②慣れてきたら、指導者は何も言わずにイラストや写真を指さし、児童だけが月名を言うようにする。 ※語彙の難易度が高いため、慣れるまで繰り返し行う。		
○【Let's Listen 1】 「日本の行事と月を線で結ぼう。」		
①指導者は写真が何の行事か、また、何月の行事かを尋ねながら、その月を英語で紹介する。児童は写真からそれが何の行事か答える。また、それが何月の行事か答える。 ②児童は誌面の行事の写真と月を線で結ぶ。 ※英語での呼び名の由来や、日本の旧暦での呼び名について触れ、国語科と関連した指導を行うこともできる。		
○【Let's Play】 「ポインティングゲーム(月・季節)」		
①児童はペアになり、1つの場面を見て、指導者が言う月の絵や写真を2人でさし示す。 ※カルタ取りにならないように注意し、ペアで協力しながら行うようにうながす。 ★Let's play the Pointing Game.		
○【Let' s Watch and Think 2】 ・児童は誌面の行事の写真と月を線で結ぶ。	・デジタル教材を見て、世界の行事の開催月を聞き取る。	デジタル教材
○Sounds and Letters ・A, H, I, M の文字の書き方を知り、形に注意しながらワークシート (Unit2-5) に書く。	・	ワークシート (Unit2-5)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：様々なものの言い方から日本語と英語の音の違いに気がついている。＜行動観察・振り返りカード分析＞

5年一単元7 When is your birthday? 2 / 4時間 (We Can! 1 を使用)

目標 日にちの言い方を知り、月の言い方に慣れ親しむ。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ・数回聞き、耳慣れてきたら言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○「ミッシングゲーム」	①指導者が5、6枚貼る月名行事絵カードを見て、その言い方を確認する。 ②児童が目をつむっている間に指導者は1枚の絵カードを隠す。 ③目を開け、なくなっているカードの月名を言う。	
○「ステレオゲーム」	①数人の児童が前に出て、各自教師用絵カードから1枚選び、ほかの児童に見せないようにもって1列に並ぶ。ほかの児童は指導者と一緒に”When is your birthday?”と尋ねる。 ②前の児童は自分がもっているカードの月を答える。 ③外の児童は誰が何月と言ったかを聞き取る。	
○「誕生日の言い方を知ろう。」 ・音声教材で、1～31の序数の言い方を順に聞く。 ・序数の言い方を順不同に聞き、紙面p.13の数字に印をつける。 ・自分の誕生日を確認して言う。		デジタル教材
○【Let's Listen 2】 「日付と何の日かを書こう。」 ・誌面の表中の行事は何の行事で、いつ行われるか考え、行事と日付を記入する。 ・音声教材を聞いて、答えを確かめる。		デジタル教材
○「誕生日を言ってみよう。」 ・教師用絵カードを見て、その月の誕生日の児童は立ち、自分の誕生日を”My Birthday is March eighteenth” などと答える ★When is your birthday?		教師用絵カード
○Sounds and Letters 「アルファベットの大きい文字を書こう」 ・Y,V,X,W,Tの文字の書き方を知り、形に注意しながらワークシート (Unit2-6)に書く。		ワークシート (Unit2-6)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価: 日にちの言い方や月の言い方を知っている。＜行動観察・振り返りカード点検

5年一単元7 When is your birthday? 3 / 4 時間 (We Can! 1 を使用)

目標 誕生日の尋ね方や答え方に慣れ親しむ。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p. 12 参照) * 内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ・数回聞き、耳慣れてきたら言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○【Let's Listen 3】 「誕生日はいつか、線で結ぼう。」 ・音声教材を聞いて、誌面の人物と誕生日を線で結ぶ。		
○「カレンダービンゴゲーム」	①月名でビンゴゲームをする。3×3のマス目に1から12までのうち9つの好きな数字をランダムに書く。 ②指導者に“When is your birthday?”と尋ねる。 ③指導者が言った月日聞き、その月の数字があれば数字に丸をつけ、○に日にちを書き込む。代表児童にも同様に行い、縦横斜めのいずれかの列が早く揃った人の勝ち。 ※実態に応じて、指名した児童に誕生日を尋ねたり、児童が教室を動いて尋ね合ったりする形で行うとよい。	
○「誕生日の友だちをさがそう。」	①バースデーカードを各児童に2、3枚ずつ配布する。裏面には児童は自分の誕生日を記入する。 ②カードを回収し、よくシャッフルして、再度2、3枚ずつ配布する。 ③各児童にカードに書かれた誕生日の友だちをみつけさせる。 ④見つけたら、その友だちの名前をToの欄に記入して渡すように指示し、活動の終わりにカードを再び回収する。 ※回収したバースデーカードには、次時の準備を行っておく。本人以外のバースデーカードが行くように注意しながら、各児童に2、3枚ずつ配布し、次時までそのカードの友だちのよいところやすてきなところをカードの表面にメッセージとして書いてくるように伝える。また、自分の名前をFromの欄に忘れずに書くよう指示する。 ★When is your birthday?/ My birthday is ~	
○Sounds and Letters 「アルファベットの大文字を書こう」 ・F, N, L, K, Eの文字の書き方を知り、形に注意しながらワークシート(Unit2-7)に書く。		ワークシート (Unit2-7)
・本時の活動をふり返る。 ・挨拶をする。	・児童の態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：誕生日の尋ね方や答え方を知っている。＜行動観察・振り返りカード＞

5年一単元7 When is your birthday? 4 / 4時間 (We Can! 1 を使用)

目標 積極的に誕生日を尋ねたり答えたりしようとする。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
○【Small Talk】 ・HRT と ALT あるいは、指導者と児童で簡単な会話をする。 『We Can 1 指導編』 p.12 参照) *内容は各校で設定する。『We Can 1 指導編』 p.12 参照)	※ Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。 そのような中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。	
○【LET' s Chant】” When is your birthday?” ・数回聞き、耳慣れてきたら言う。	・児童と一緒に言う。	デジタル教材
○【Activity 1】 「友だちの誕生日を調べよう。」 ・教室を自由に動いて、友だちと誕生日を尋ね合い、各月の誕生日を調べて、誌面の表に名前と誕生日を記入する。 ・全体で確認して、学級全員の誕生日を入れた表を完成させる。		
○「バースデーカードを届けよう」		
①前時に使った、児童名(表)とその児童の誕生日(裏)とが記入されたバースデーカードを、各児童に2、3枚ずつ本人以外のカードが行くように配布する。 ②カードに書かれた友だちの名前を確認し、その友だちのよいところやすてきなところをメッセージとして書く。 ③また、自分の名前を From の欄に書く。 ④指導者は児童にカードを中表に折って児童名が見えないようにするように提示し、その後回収する。回収し終わったら全体をよくシャッフルし、再度中表におったまま、カードを各児童に2、3枚配布する。 ⑤指導者から配布されたカードを開かず、裏面に書いている誕生日の人を尋ねて探す。 ⑥誕生日の人が見つかったら、”Happy birthday. Here you are.”と言いながらその人に渡すよう指示する。 ※もらったバースデーカードを読み、感想を発表させるとよい。カードは家で作成させてもよい。		
○【STORY TIME】 ・カズとマリアの絵本の読み聞かせを聞く。		
○Sound and Letters 「アルファベットの大きな文字を書こう」 ・Z, G, D, B の文字の書き方を知り、形に注意しながらワークシート(Unit2-8)に書く。		ワークシート (Unit2-8)
・本時の活動をふり返る。 ・挨拶をする。	・児童の態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価：積極的に誕生日を尋ねたり答えたりしている。＜行動観察・振り返りカード＞

5 学年一単元 8

What do you have on Monday? (Hi, friends! 1 と We Can! 1 を使用)

- 単元目標**
- ・時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。【コ】
 - ・時間割について尋ねたり答えたりする表現また、活字体の小文字を読むことに慣れ親しむ。【慣】
 - ・外国の小学校と日本の学校生活の共通点や相違点に気づく。【気】
- 単元評価規準**
- ・時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。【コ】
 - ・曜日や教科の言い方や時間割を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。【慣】
 - ・外国の小学校と日本の学校生活の共通点や相違点を理解している。【気】

表現 I study ~ on ~. I have ~ ~. What do you have on ~?

単元計画 (5時間)

時	目標と主な活動	評価		
		コ	慣	気
1	○【Small Talk】好きな教科について指導者と児童で簡単な会話をする。 ○曜日の言い方を知る。 【S】“Sunday, Monday, Tuesday” (We Can! 1 P. 20) ○教科の言い方を知る。 【P1】「スリーヒントクイズ」(Hi, friends! 1) P. 32 「ミッシングゲーム」 ○【L1】「今日の時間割は何か考えよう。」P. 33 音声教材で聞き、誌面に教科の名前を書く。 ○【C】“What do you have on Monday?” ○ Sounds and Letters「アルファベットの小文字を書こう。」			○ ・曜日や教科などの言い方を理解している。 〈行動観察・振り返りカード分析〉
2	曜日や教科などの言い方に慣れ親しむと共に外国の小学校と日本の小学校の共通点や相違を知る 【S】“Sunday, Monday, Tuesday” (We Can! 1 P. 20) ○【P2】「キーワードゲーム」(Hi, friends! 1 P. 33) ○【Let's Listen】(We Can! 1 P. 20) どの曜日の時間割かを聞いて番号を書く。 ○【W T1】(We Can! 1 P. 19) 「映像を見てわかったことを書こう。」 ○【C】“What do you have on Monday?” ○ Sounds and Letters「アルファベットの小文字を書こう。」		○	○ ・曜日や教科などの言い方を聞いたり、言ったりしている。〈行動観察〉 ○ ・外国と日本の学校生活の共通点や相違点に気づいている。 〈行動観察・振り返りカード分析〉
3	時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようするとともに、外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る。 ○【Small Talk】今日の時間割について児童に尋ねながら話す。 ○「今週の時間割は？」 “What do you have on ____?” と尋ねながら今週のクラス時間割を振りかえる。 ○【Let's Play】(We Can! 1 P. 20) ペアになり、教科名を言ってどの曜日の時間割かを当てる。 ○【W T2】「映像を見て、わかったことを書こう。」(We Can! 1 P. 21) ○【C】“What do you have on Monday?” ○ Sounds and Letters「アルファベットの小文		○	○ ・時間割について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 〈行動観察・振り返りカード点検〉 ○ ・外国と日本の学校生活の共通点や相違点に気づいている。 〈行動観察・振り返りカード分析〉

	字を書こう。」				
4	夢の時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 ○【C】 “What do you have on Monday?” ○【A1】 「『夢の時間割』を紹介しよう。」 P. 22 ①先生の夢の時間割を全員で尋ね、聞き取った時間割を紙面に英語で写し書く。 ②ペアで夢の時間割を尋ね合い、紙面に書く ○「Who am I?クイズ」 数人の夢の時間割を紹介して、誰の時間割なのかクイズをする。 ○ Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」	○	○		・時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・聞き取った教科名を英語で書こうとしている。〈行動観察〉
5	自分の夢とそのための時間割について考えようとしている。 ○【C】 “What do you have on Monday?” ○【Small Talk】 指導者が子どもの頃を想定して将来の夢とそのための夢の時間割について話す。 児童に将来の夢を尋ねる。 ○【W T 3】 「登場人物の将来の夢と夢の時間割を聞き取ろう」 (We Can!1 P. 23) ○【A2】 「『オリジナル時間割』を紹介しよう。」 (We Can!1 P. 24) 将来の夢を意識したオリジナル時間割を作り、グループ内発表をする。 ○【STORY TIME】 (We Can!1 P. 25)	○	○		・時間割について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・オリジナル時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉

1-単元8

What do you have on Monday? 1/5 時間

目 標 曜日や教科などの言い方を知る。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード (曜日・教科)、ワークシート (Unit4-7)、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 好きな教科	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・好きな教科について話す。 ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	教師用絵カード (教科)
○【Let's Sing】We Can! 1p.20 “Sunday, Monday, Tuesday” ・音声教材を聞き、絵カードを見ながら一緒に歌う。		児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Play1】(Hi, friends p.32) 「スリーヒントクイズ」 ・児童は3つのヒントを聞き、何の教科かを答える。	・指導者は教科に関する3つのヒントを英語で出す。 ・ヒントだけで分からないときには、その教科に関係するジェスチャーをまじえたり、教師用絵カードを提示したりする。	教師用絵カード (教科)
○「ミッシングゲーム」 ・教科の絵カードを記憶し、隠されたカードは何かを当てる。	・教科の教師用絵カードを複数提示して、児童が目を閉じている間に、絵カードを減らす。児童は隠されたカードを答える。隠す枚数を調整して難易度を変える。	教師用絵カード (教科)
○【Let's Listen 1】 (Hi, friends p.33) 「今日の時間割は何か、考えよう。」 ・音声教材で時間割を聞き、誌面に教科名を日本語で書く。	・指導者は教室にある学級の時間割を使って、ある曜日の教科などを I study ～, ～ and ～. と言い、何曜日かを尋ねる。児童はそれを聞いて何曜日か答える。 ・教師用絵カードを提示しながら、曜日の言い方を知らせる。	児童用テキスト 教師用絵カード (教科) デジタル教材
○【Let's Chant】We Can! 1p.22 “What do you have on Monday?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。 ・質問と答えの部分に分かれて言う。	・まず、1度聞かせてから、言えるところから言うよう指示する。児童の実態により、スピードを選ぶとよい。児童と一緒に言う。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・本単元を通して1枚のワークシートを使用するため、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート (Unit4-7)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・曜日や教科などの言い方を理解している。【気】〈行動観察・振り返りカード分析〉

1-単元8

What do you have on Monday? 2/5時間

目 標 曜日や教科などの言い方に慣れ親しむと共に外国の小学校と日本の小学校の共通点や相違を知る

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード (曜日・教科), デジタル教材, ワークシート (Unit4-8), 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Sing】We Can! 1p.20 “Sunday, Monday, Tuesday” ・音声教材を聞き、絵カードを見ながら一緒に歌う。		児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Play1】(Hi, friends p.33) 「キーワードゲーム」 ・指導者が言う教科名を集中して聞いたり、繰り返し言うことで慣れ親しむ。	・キーワードを決める時には“What subject do you like?”などと尋ねて答えさせてから決める。	教師用絵カード (教科)
○【Let's Listen】We Can! 1p.20 ・音声を聞き、どの曜日の時間割を言っているのか聞き取る。	・活動に入る前に、曜日の英語表記を見ながら確認をする。 ・答えを確認するときには、全員で教科名を言いながら確認をする。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Watch and Think 1】p.19 「映像を見て、わかったことを書こう。まる」 ・外国の学校生活についての映像を視聴し、聞き取れた内容や分かったことを誌面を書く。	・その国の1つの学校の例であることを告げ、偏った見方にならないようにする。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Chant】We Can! 1p.22 “What do you have on Monday?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。 〈意欲を高める工夫〉 ・質問と答えの部分に分かれて言う。 ・別の教科などに替えて言わせる。	・児童の実態により、スピードを選ぶとよい。児童と一緒に言う。	デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートを書く。	・ワークシートは、前時の続きから行い、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート (Unit4-8)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・曜日や教科などの言い方を聞いたり、言ったりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・外国と日本の学校生活の共通点や相違点に気づいている。【気】〈行動観察・振り返りカード分析〉

1-単元8

What do you have on Monday? 3/5 時間

目 標 時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとするとともに、外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る。

準 備 児童用テキスト、模造紙に書いた教師用時間割表、ワークシート(Unit4-9)、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 今日の○組の時間割	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・今日の時間割について話す。 ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	時間割表 教師用絵カード (曜日・教科)
○「今週の時間割は？」 ・教師の質問に答えながら、今週クラスの時間割を英語で答える。 “We have ____ and ____ on Monday.”	・“What do you have on ____?” と尋ねながら今週のクラス時間割を振りかえる。 ・時間割を思い出せなかったらヒントを出す。 ・“have ____.” には「持つ」という意味だけでなく「ある」という意味で使うこともあることを伝える。	時間割表 教師用絵カード (曜日・教科)
○【Let's Play】 We Can! 1p.20 「時間割をたずね合おう。」 ・ペアになり、一方は相手に分からないように曜日を選ぶ。もう一方は Do you have ~? と尋ねたり答えたりして、友達が選んだ曜日を当てる。	・児童の実態により、ペアではなくグループで行ってもよい。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Watch and Think 2】 We Can! 1p.21 「映像を見て、わかったことを書こう。」 ・外国の学校生活についての映像を視聴し、聞き取れた内容や分かったことを誌面に書く。	・その国の1つの学校の例であることを告げ、偏った見方にならないようにする。 ・聞こえたキーワードを全体で共有したり、一文ずつ聞かせたりするなどの工夫をして、無理のないように聞き取らせる。 ・視聴した後、感想を述べ合う。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Chant】 We Can! 1p.22 “What do you have on Monday?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。 ・質問と答えの部分に分かれて言う。	・別の教科などに替えて言わせる工夫をすることもできる。	デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・ワークシートは、前時の続きから行い、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート (Unit4-9)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・時間割について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。【コ】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を理解している。【気】〈行動観察・振り返りカード点検〉

1-単元 8

What do you have on Monday? 4/5 時間

目 標 夢の時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（曜日・教科）、ワークシート（Unit4-10）、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Chant】We Can! 1p. 22 “What do you have on Monday?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。 ・質問と答えの部分に分かれて言う。	・児童の実態により、スピードを選ぶとよい。児童と一緒に言う。	デジタル教材
○【Activity 1】We Can! 1p. 22 「『夢の時間割』を紹介しよう。」 ① 児童は指導者に What do you have? と尋ね、指導者の夢の時間割を聞いて紙面に書く。 ② 自分の「夢の時間割」を1日分考えて、誌面の欄に書く。 ③ ペアで夢の時間割について伝え合う。	・指導者の発表がこの活動のモデルになる。 ・ペアになり、“What do you have?” “I have～.”などと尋ね合い、ペアの相手の夢の時間割を誌面に書く。 ・絵カードやテキストの英語表記を見ながら教科名を英語で書くようにさせる。 ・時間があれば、代表児童に作った夢の時間割を紹介してもらう。	児童用テキスト デジタル教材
○「Who am I?クイズ」 ・指導者の紹介する「夢の時間割」は誰のものなのかクイズ形式で当てる。	・指導者は、児童がペア活動を行っている間に机間巡視を行い、数人の児童の「夢の時間割」をメモしておく。 ・児童に“What do you have?”と尋ねさせ、指導者がある児童の時間割を答え、誰のものか推測させる。 ・好きな教科に偏った時間割の児童には、“Do you like _____?”などと尋ねる。	
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・ワークシートは、前時の続きから行い、無理することなく適時書く活動を行う。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート (Unit4-10)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・聞き取った教科名を英語で書こうとしている。【慣】〈行動観察〉

1-単元 8	What do you have on Monday? 5/5 時間
目 標	自分の夢とそのための時間割について考えようとしている。
準 備	児童用テキスト、教師用絵カード（物）、ワークシート（Unit3-2）、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 将来の夢と「夢の時間割」	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・指導者が子どもの頃を想定して将来の夢とそのための夢の時間割について話す。 ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Chant】 We Can! 1p. 22 “What do you have on Monday?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。 ・質問と答えの部分に分かれて言う。	・児童の実態により、スピードを選ぶとよい。児童と一緒に言う。	デジタル教材
○【Let's Watch and Think 3】 We Can! 1p. 23 「登場人物の将来の夢と夢の時間割を聞き取ろう」 ・登場人物が自分の夢とそのための時間割を聞き、どんな夢でどんな時間割なのかを聞き取る。	・活動の前に、将来の夢について児童に尋ねる。 ・音声を聞かせる前に、登場人物の名前や絵カードの職業名について確認する。 ・区切って聞くのではなく、まとまりのある文を聞かせる。聞き取れない児童がいる場合には数回聞かせたり、キーワードをヒントで与えたりする。	児童用テキスト デジタル教材
○【Activity2】 We Can! 1 P. 24 ・1週間分のオリジナル教科を考える。 ・時間割のテーマや理由をワークシートに書く。	・児童が作成する前に、指導者がモデルとなり作成のポイントを示す。 ・将来の夢を意識した時間割を作成することを伝える。 ・昼休みや午前中授業など自由に考えさせる。 ・個人での作成が難しければ、似たような将来の夢をもつ児童同士でペアを作らせてもよい。	児童用テキスト (巻末絵カード) ワークシート (Unit3-2)
○「オリジナル時間割を紹介しよう」 ・グループ内でオリジナル時間割の発表をする。	・オリジナル時間割のワークシートを見せながら、Show and Tell の形式で発表する。	
○【STORY TIME】 p. 25 ・カズとマリアの絵本の読み聞かせを聞く。	・解説はせず、二人の会話を楽しませ、読むことに慣れさせる。	児童用テキスト デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・時間割について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・オリジナル時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード点検〉

2019 年度
小学校外国語活動
年間指導計画
指導案例集

第5学年

单元9～单元13

2019 年 3 月
那霸市教育委員会

実施月	時間	単元名 時間数	指導目標	主な表現	主な語彙	主な教材
4月	1	[単元1] Hello! ①	【コ】積極的に挨拶をしようとする。 【慣】英語での挨拶や、自分名前言い方に慣れ親しむ。 【気】世界には様々な言語があることを知る。	Hello, My name is ~. What's your name? Nice to meet you. Thank you. Goodbye.		『Hi, friends! 1』 Lesson1 Hello! 『We Can! 1』 Unit1 Hello, everyone.
	2		【気】日本語と英語の音声やリズムの違いに気付く。	Hello, I'm (Saki) Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? I like / don't like ~.		
5月	3	[単元2] Hello, everyone ④	【慣】好きなものや欲しいものなどを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。	What do you like? What animal / color / fruit / sport do you like? I like ~.	class, badminton, chocolate, lettuce, name, animal, watch, think	『We Can! 1』 Unit1 Hello, everyone.
	4		【慣】好きなものや欲しいものなどを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。	What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).		
	5		【コ】進んで、簡単な自己紹介をしようとする。			
6月	6	[単元3] How many? ②	【慣】1～20の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 【気】言語には、それぞれ特色があることに気付く。	How many pencils? Five pencils.	身の周りのもの (cat, dog, pencil, apple) 数字 (one, two, three, ... twenty)	『Hi, friends! 1』 Lesson3 How many?
	7		【コ】進んで、数を数えたり、尋ねたりしようとする。			
	8	[単元4] What do you like? ④	【慣】色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語の音の違いに気付く。	What do you like? What animal / color / fruit / sport do you like? I like ~.	色 (red, blue, yellow, pink, green, orange, purple, black, white) 形 (heart, star, circle, triangle)	『Hi, friends! 1』 Lesson5 What do you like? 『We Can! 1』 Unit1 Hello, everyone.
	9		【コ】進んで、好きなものについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。	I like rabbits / red / banana / soccer		
7月	10	[単元5] Alphabet ④	【気】身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付く。 【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。	Look, What's this? Hint, please. How many letters? I have ~. Do you have (a/b)? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.	アルファベットの 小文字 (a～z)	『Hi, friends! Plus』 Animal Paradise
	11		【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。			
	12		【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。【コ】進んで、アルファベットの文字について伝え合おうとする。			
	13		【慣】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。【コ】進んで、アルファベットの文字について伝え合おうとする。			
8～9月	14	[単元6] What's this? ③	【気】日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。		身の回りの物 (triangle, fish, recorder, shoe, notebook, eraser, glove, beaker, bird, textbook, eggplant, brush, mat, bat, cap, ruler, globe, tomato, flying pan, cup, microscope, piano, flower)	『Hi, friends! 1』 Lesson7 What's this?
	15		【慣】ある物が何かを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。	What's this? It's a piano.		
	16		【コ】進んで、ある物についてそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。			
	17	[単元7] When is your birthday? ④	【気】世界には、様々な祭りや行事があることに気付く。【慣】活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。	When is your birthday? My birthday is (May 7th). What (sport) do you like? Do you like (soccer)? Yes, I do. / No, I don't. Do you want (new soccer shoes)? What do you want for your birthday? I want a (dog). This is for you. Thank you. You're welcome. Happy birthday!	月 (January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December) 序数 (1st, 2nd, ... 31st) 季節 (spring, summer, autumn / fall, winter)	『We Can! 1』 Unit2 When is your birthday?
	18		【慣】月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。			
	19		【慣】月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。			
	20		【コ】進んで、誕生日を尋ねたり答えたりしようとする。【慣】活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。			
10月	21	[単元8] What do you have on Monday? ⑤	【気】曜日や教科などの言い方を知る。			
	22		【慣】【気】曜日や教科などの言い方に慣れ親しむと共に外国の小学校と日本の小学校の共通点や相違を知る。		教科など (Japanese, English, math, social studies, science, music, P.E., arts and crafts, home economics, calligraphy)	『Hi, friends! 1』 Lesson8 I study Japanese. 『We Can! 1』 Unit3 What do you have on Monday?
	23		【コ】【気】時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。また、外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る。	I study ~ on ~. I have ~ on ~. What do you have on ~?		
	24		【コ】夢の時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。			
	25		【コ】【慣】自分の夢とそのための時間割について考え、積極的に尋ねたり答えたりする。			

11月	26		【慣】時刻の言い方や日課の表現の仕方を知る。			
	27	[単元9] What time do you get up? ④	【コ】頻度や日課を聞いたり言ったりしようとする。	What time do you (get up)? I (usually)(get up) at (7:00).	always/usually/never / sometimes/at 手伝い(wash the dishes/set the table/ walk my dog/ clean my room/get the newspaper)	『We Can!1』 Unit4 What time do you get up ?
	28		【コ】【慣】一日の生活についてまとまりのある話を聞いておおよその内容をとらえることができる。			
	29		【慣】【気】日課を表す表現に親しみ、世界の子どもの日課について知る。			
12月	30	[単元10] She can run fast. He can jump high. ⑤	【気】動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。	Can you(sing well?) Yes, I can./No, I can't. [I /You/He/She][can/c an't](sing well).	動作 (play[soccer/bad minton/table tennis/volleyball/ shogi/ endgame/ the recorder/ the piano],do[kendo/ judo],ride a[bicycle/unicycle],swim,skate,ski,cook,run fast,jump high,sing well),can,can't,he,she	『We Can!1』 Unit5 She can run fast. He can jump high.
	31		【慣】動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。			
	32		【慣】できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、自分ができていることを考える。			
	33		【コ】【慣】自分ができていることを考え、友達と積極的に交流しようとするともに、他者ができていることについて紹介する表現を知る。			
1月	34		【慣】他者ができていることについて紹介する表現に慣れ親しむ。			
	35	[単元11] Where is the treasure? ④	【慣】道案内や物の位置を尋ねたり答えたりする表現に触れる。活字体の小文字を読んだり書いたりすることに触れる。	Where is treasure? Go straight(for three blocks). Turn[right/left](at the third corner). You can see it on [right/left]. It's[on/in/under/by](the desk).	身の回りの物 (cap,cup,basket,scissors,box),施設・建物 (station,fire station,gas station,police station,post office,hospital,supermarket,convenience store,department store,bookstore,park),treasure,block,in,under,by,corner	『We Can!1』 Unit7 Where is treasure?
	36		【慣】部屋の中の物についての説明や部屋の様子を聞いて、位置関係を表す表現に慣れ親しむ。			
	37		【気】日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気づく。			
	38		【コ】進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。			
2月	39	[単元12] What would you like? ⑦	【気】丁寧な言い方でほしいものを尋ねたり言ったりする表現を知る。	What would you like? I'd like a hamburger.	食べ物・料理 (hamburger,omelet ,hamburger steak,cake,spaghetti,hotdog,pizza,ice cream,yogurt,pudding,orange juice,parfait,sushi, sausages,fried chicken,green tea,natto,miso soup,rice、bread,French fries)	『Hi,frends!1』 Lesson9 What would you like? 『We Can!1』 Unit8 What would you like?
	40		【慣】丁寧な言い方でほしいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。			
	41		【慣】【気】世界には様々な料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。			
	42		【コ】相手意識を持って、丁寧な言い方でほしいものを尋ねたり答えたりしようとする。			
3月	43	[単元13] Who is your hero? ⑤	【コ】【慣】レストランでの注文の仕方や値段の聞き方の表現に慣れ親しみ、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。	Who is your hero? This is my hero. [He/She]can(cook well) [He/She]is(kind). Can[you/he/she]play baseball well)? [He/She]is(cool).	hero,so,because,気持ちや状態を表す語 (active,cool,fantastic,friendly,gentle,kind,brave,strong,tough)	『We Can!1』 Unit9 Who is your hero?
	44		【コ】【慣】誰かのために目的を意識したメニューを作ることができる。			
	45		【慣】自分の考えたスペシャルメニューを発表することができる。			
	46		【コ】得意なことや表現の仕方がわかり、伝え合おうとする。			
3月	47	[単元13] Who is your hero? ⑤	【コ】【慣】第三者の得意なことや得意なことを聞いたり言ったりできる。	Who is your hero? This is my hero. [He/She]can(cook well) [He/She]is(kind). Can[you/he/she]play baseball well)? [He/She]is(cool).	hero,so,because,気持ちや状態を表す語 (active,cool,fantastic,friendly,gentle,kind,brave,strong,tough)	『We Can!1』 Unit9 Who is your hero?
	48		【コ】【慣】自分や第三者の得意なことや得意なことについて、聞いたり言ったりすることができる。			
	49		【慣】あこがれの人の話を聞き、その人の得意なことや得意なことがわかる。			
	50		【コ】他者に配慮しながら、自分のあこがれの人の人について、自分の意見を含めて伝えようとしている。			

5 学年一単元 9

What time do you get up ?

単元目標

- ・進んで自分の一日の生活について伝え合おうとする。【コ】
- ・一日の生活について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【慣】

単元評価規準

- ・相手に伝わるように工夫して自分の一日を紹介している。【コ】
- ・世界と日本の生活の相違点や共通点に気づく。【気】
- ・一日の生活の時刻を尋ねたり言ったりしている。【慣】
- ・世界と日本の生活には共通点や相違点があることに気づいている。【気】

表 現

- I get up at (seven). What time do you (get up)?
- get up, brush my teeth, eat breakfast, go to school, study, eat lunch, go home, do my homework, take a bath, eat dinner, go to bed
- always, usually, sometimes, never

単元計画 (4時間)

時	目標と主な活動 【 】＝誌面化されている活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準<方法>
1	時刻の言い方や日課の表現の仕方を知る。 ○ Small Talk : 朝の様子 ○ 【Buzz Game】 (1～60) ○ 「時刻当てゲーム」 指導者の言う時刻を日本語や英語で答える。 ○ 「ジェスチャーゲーム」 P. 28～29 にある日課をジェスチャーで表したり答えたりする。 ○ 【C】 “What time do you get up?” ○ Sounds and Letters 大文字と比較しながら、小文字の書き方を知り、形や4線上に文字を書く。			○	・時刻の表し方がわかる。 <行動観察>
2	頻度や日課を聞いたり言ったりしようとする。 ○ Small Talk : 日課 always, usually, sometimes, never の4種類を使って日課を紹介する。 ○ 【Let's Play1】 P. 28 「ポインティングゲーム」 (頻度) 指導者の言う頻度を表す語を聞いて、誌面にある絵を指し示す。 ○ 「マジョリティ調査」 指導者の質問に対して、4種類の頻度から選んで挙手して答える。 ○ 【Let's Play2】 P. 29 ペアで互いに What time do you (get up) ? と尋ね、時刻を記入する。(ペアを替える) ○ 【C】 “What time do you get up?” ○ Sounds and Letters 大文字と比較しながら、小文字の書き方を知り、形や4線上に文字を書く。			○	・頻度や日課を聞いたり言ったりしている。 <行動観察・振り返りカード分析>
3	一日の生活についてまとまりのある話を聞いておおよその内容をとらえることができる。 ○ 【C】 “What time do you get up?” ○ 【Let's Play3】 P. 30 指導者の生活に聞いて聞き取り、その頻度と日課を線で結ぶ。 ○ 「ペアで伝え合おう」 ペアになり、起床や就寝についてイラストをヒントに、自分のことをペアと伝え合う。 ○ 【Let's Listen1】 P. 29 音声聞いて、登場人物がどんな頻度でどんなことをしているかを聞き取り線で結ぶ。 ○ Sounds and Letters 大文字と比較しながら、小文字の書き方を知り、形や4線上に文字を書く。			○	・他者に配慮しながらペアで日課について伝え合おうとしている。 <行動観察・振り返りカード点検> ・音声聞いて、一日の日課とその頻度を推測して線で結んでいる。 <行動観察・振り返りカード点検>

4	日課を表す表現に親しみ、世界の子どもの日課について知る。 Small Talk : ○○先生の日課 児童に馴染みのある先生(校長先生・図書司書など)の日課について紹介する。 ○【C】 “What time do you get up?” ○【Let’ s Listen 3】 P. 32 登場人物が会話形式で日常生活について伝えたりしている音声を聞き取り線で結ぶ。 ○【Let’ s Watch and Think1】 P. 27 世界の子供たちの一日について知り、自分たちの生活との共通点や相違点等気づいたことを発表する。 ○【STORY TIME】 P. 33 絵本の読み聞かせを聞く。 ○ Sounds and Letters 大文字と比較しながら、小文字の書き方を知り、形や4線上に文字を書く。				○ ・ 音声を聞いて、一日の日課とその頻度を推測して線で結んでいる。 〈行動観察・振り返りカード点検〉 ○ ・ 世界と日本の生活の共通点や相違点に気づいている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
---	--	--	--	--	---

1-单元 9	What time do you get up ? 1/4 時間
目 標	時刻の言い方や日課の表現の仕方を知る。
準 備	児童用テキスト, 教師用絵カード (日課), ワークシート (Unit 4-11) , デジタル教材, 振り返りカード 時計の模型

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 朝の様子 ・指導者の話を, 反応を示したり, 質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・朝起きてから歯磨き, 朝食, 登校までの日課について話す。顔の表情豊かにジェスチャーを付けて児童が理解できるように話す。 ・本時のめあてと流れを児童と一緒に確認する。	教師用絵カード (日課)
○【Buzz Game】(1~60) ・グループで Buzz Game をする。	・数の言い方に慣れさせることがねらい。 1 人が言える数は, 1 つから 3 つまで。スタートNo.から言い始め, Buzz No.を言ったところで終了。Buzz No.を言った児童から次のスタートNo.でゲームを再開する。1 回目は 1~20, 2 回目は 20~40, 3 回目は 40~60 の数字で行う。	
○「時刻当てゲーム」 ・指導者の言う時刻を日本語や英語で答える	・指導者が “It’s 7:30” などと言い, 児童が時刻を日本語で答える。(7:00, 7:15, 7:45, 7:05 の言い方に慣れさせる) ・次に “What time is it?” と指導者が問いかけ, 児童が英語で答える。(時計の模型を使うとよい)	時計の模型
○「ジェスチャーゲーム」 ・動作の言い方を知る。 ・指導者がするジェスチャーを見て, 動作を英語で言い当てる。	・まず, 生活の様子を動作で表しながら, 動作の言い方を紹介する。 ・生活の様子を動作で表し, それが何か尋ねる。 ・慣れてきたらボランティア児童にジェスチャーをさせる。	児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (日課)
○【Let’s Chant】p.27 “What time do you get up?” ・音声を聞き, 絵カードを見ながら言う。	・オプション1から始める。まず児童に聞かせ, ゆっくりバージョンから始めるようにする。聞こえた語を交流させながら一緒に歌う。	デジタル教材
○Sounds and Letters ・大文字と比較しながら, 小文字の書き方を知り, 形や4線上の書く位置に注意を払いながらワークシートに文字を書く。	・書く前に児童とアルファベットの文字の読み方を確認する。書き間違いやすいものについては, 児童と書き方や4線上の位置について確認しながら始めるようにする。 ・デジタル教材で音声を聞かせてその小文字を書くように指示する。	デジタル教材 「教材どうぐばこ」 ワークシート (Unit 4-11)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・時刻の表し方がわかる。【慣】〈行動観察〉

目 標 頻度や日課を聞いたり言ったりしようとする。

準 備 教師用絵カード (日課・頻度), ワークシート (Unit 4-12), デジタル教材, 振り返りカード, カレンダー

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 日課 ・指導者の話を, 反応を示したり, 質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・always, usually, sometimes, never の4種類を使って日課を紹介する。 ・この活動を通して, 児童に頻度を表す語彙に出合わせる。カレンダーを示すとよい。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	教師用絵カード (日課・頻度) カレンダー
○【Let's Play1】P.28 「ポインティングゲーム」(頻度) ・指導者の言う頻度を表す語を聞いて, 誌面にある絵を指し示す。	・誌面の中にある頻度を表す語を言い, それに該当する絵を児童にさし示すように言う。 ・繰り返し聞かせることで慣れさせる。 ・慣れてくれば, 単語を言うだけでなく “I always get up at six.” のように文で言う	児童用テキスト
○【マジョリティ調査】 ・指導者の質問に対して, 4種類の頻度から選んで挙手して答える。	・起床, 登校, 就寝などについて尋ねる。 T: Do you get up at 6:00/6:30? Always? Usually? Sometimes? Never? Do you go to school at 7:30/7:45/8:00? Always? Usually? Sometimes? Never? Do you go to bed at 9:00/10:00/11:00? Always? Usually? Sometimes? Never?	教師用絵カード (日課・頻度)
○【Let's Play2】P.29 ・ペアで互いに What time do you (get up) ? と尋ね, 時刻を記入する。(ペアを替える)	・自分の起床時間を誌面「あなた」のところに書き込み, 頻度のアイコンに○をするように指示する。 ・代表児童とデモンストレーションをして, 質問の仕方と答え方を理解させる。 ・ペアを替えながら, 児童間で尋ね合いをさせる。	児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (日課・頻度)
○【Let's Chant】p.27 “What time do you get up?” ・音声を聞き, 絵カードを見ながら言う。	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	デジタル教材 教師用絵カード
○Sounds and Letters ・大文字と比較しながら, 小文字の書き方を知り, 形や4線上の書く位置に注意を払いながらワークシートに文字を書く。	・書く前に児童とアルファベットの文字の読み方を確認する。書き間違いやすいものについては, 児童と書き方や4線上の位置について確認しながら始めるようにする。 ・デジタル教材で音声を聞かせてその小文字を書くように指示する。	デジタル教材 「教材どうぐばこ」 ワークシート (Unit 4-12)
・本時の活動を振り返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・本時のねらいに照らして児童を称賛する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・頻度や日課を聞いたり言ったりしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード分析〉

目 標 一日の生活についてまとまりのある話を聞いておおよその内容をとらえることができる。

準 備 教師用絵カード（日課・頻度）、ワークシート（Unit 4-13）、デジタル教材、振り返りカード、

児童の活動	指導者の活動	準備
・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Chant】p.27 “What time do you get up?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	デジタル教材 教師用絵カード （日課）
○【Let's Play3】P.30 ・指導者の生活に聞いて聞き取り、その頻度と日課を線で結び、時刻を書かせる。	・4つの行動に関して、指導者自身の日課を反映させながら短いスピーチを4文で言う。 I (always) get up at 6:00. I (never) eat toast, salad, sausage and coffee for breakfast. I (sometime) wash the dishes. I (usually) go to bed at 11:00.	児童用テキスト 教師用絵カード （日課・頻度） デジタル教材
○「ペアで伝え合おう」 ・ペアになり、起床や就寝についてイラストをヒントに、自分のことをペアと伝え合う。	・指導者のスピーチを例に、起床・就寝など自分の日課についてペアと話すことを伝える。 ・どのような工夫をすれば、相手にしっかりと伝えられるかを考えさせる。	児童用テキスト 教師用絵カード （日課・頻度）
○【Let's Listen1】P.29 ・音声を聞いて、登場人物がどんな頻度でどんなことをしているかを聞き取り線で結ぶ。	・聞き取りをする前にイラストから分かる情報を確認する。 ・答え合わせは全員で音声を確認しながら行う。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters ・大文字と比較しながら、小文字の書き方を知り、形や4線上の書く位置に注意を払いながらワークシートに文字を書く。	・書く前に児童とアルファベットの文字の読み方を確認する。書き間違いやすいものについては、児童と書き方や4線上の位置について確認しながら始めるようにする。 ・デジタル教材で音声を聞かせてその小文字を書くように指示する。	デジタル教材 「教材どうぐばこ」 ワークシート （Unit 4-13）
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・他者に配慮しながらペアで日課について伝え合おうとしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・音声を聞いて、一日の日課とその頻度を推測して線で結んでいる。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉

1ー单元 9

What time do you get up ? 4/4 時間

目 標 日課を表す表現に親しみ、世界の子どもの日課について知る。

準 備 教師用絵カード（日課・頻度）、ワークシート（Unit 4-14）、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備
・挨拶をする。 ○Small Talk: ○○先生の日課 ・指導者の話を、反応を示したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・児童に馴染みのある先生(校長先生・図書司書など)の日課について紹介する。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	○○先生の日課をインタビュー
○【Let's Chant】p.27 “What time do you get up?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	デジタル教材 教師用絵カード (日課)
○【Let's Listen 3】P.32 ・登場人物が会話形式で日常生活について伝えたりしている音声を聞き取り線で結ぶ。	・最初は通しで聞かせ、どんな単語や表現が聞き取れたかを問いかける。 ・次に、登場人物の1人だけの情報に集中して聞かせる。 ・児童の実態に合わせて、何度か聞かせる。 ・答えの確認は、全員でその表現を言うようにする。	児童用テキスト 教師用絵カード (日課・頻度) デジタル教材
○【Let's Watch and Think1】P.27 ・世界の子供たちの一日について知り、自分たちの生活との共通点や相違点等気づいたことを発表する。	・映像資料を視聴させ、聞き取れた言葉を発表させる。 ・日本と外国の生活の共通点や相違点に気づかせる。 ・視聴後は、自由に発言させ全体で交流する。	デジタル教材
○【STORY TIME】P.33 ・絵本の読み聞かせを聞く	・指導者は、ジェスチャーをつけ、表情豊かに読む。 ・一方的に読むのではなく、ストーリーの展開について児童とやりとりをしながら読むようにする。 ・いずれは、児童が絵本の台詞を指で追いつきながら聞いたり、自分で読んだりすることを目指している。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters ・大文字と比較しながら、小文字の書き方を知り、形や4線上の書く位置に注意を払いながらワークシートに文字を書く。	・書く前に児童とアルファベットの文字の読み方を確認する。書き間違いやすいものについては、児童と書き方や4線上の位置について確認しながら始めるようにする。 ・デジタル教材で音声を聞かせてその小文字を書くように指示する。	デジタル教材 「教材どうぐばこ」 ワークシート (Unit 4-14)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・音声を聞いて、一日の日課とその頻度を推測して線で結んでいる【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・世界と日本の生活の共通点や相違点に気づいている。【気】〈行動観察・振り返りカード点検〉

5 学年一単元 10

She can run fast. He can jump high.

単元目標

- ・自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。【コ】
- ・自分や第三者について、できることやできないことなどを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。また、小文字を読むことに慣れ親しむ。【慣】
- ・言語や人、それぞれに違いがあることに気づく。【気】

単元評価規準

- ・自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとしている。【コ】
- ・自分や第三者について、できることやできないことなどを尋ねたり言ったりしている。また、小文字を読んでいる。【慣】
- ・言語や人、それぞれに違いがあることに気づいている【気】。

表現

Can you(sing well?) Yes, I can./No, I can't. [I /You/He/She][can/can't](sing well).

単元計画（5時間）

時	目標と主な活動 【 】＝誌面化されている活動	評価			評価規準＜方法＞
		コ	慣	気	
1	動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。 ○「先生のできること・できないことを知ろう。」 ○「ジェスチャーゲーム」 【P1】「どの動物か当てよう」P.34 【L1】「どの動物のことか、男の子のことか聞こう。」P.36 【L2】「どの動物のことか聞こう。」P.36 【C】“Can you sing well?” P.35			○	・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知ることができる。〈行動観察・振り返りカード分析〉
2	動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。 【C】“Can you sing well?” P.35 【P2】「ポインティングゲーム」P.37 ○「Who am I クイズ」 ○「○×クイズ」 ○Sounds and Letters「アルファベットの小文字を書こう。」		○	○	・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり、言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・小文字を読んでいる。〈行動観察・ワークシート〉
3	できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、自分ができることを考える。 【C】“Can you sing well?” P.35 【A1】「友だちのできること・できないことを予想して、インタビューしよう。」 ○「Who am I? クイズ」 ○【WT2】「できることやできないことを聞こう。」（John と Christina の会話）P.38 ○「自分を紹介しよう。」 ○Sounds and Letters「アルファベットの小文字を書こう。」		○	○	・できるかどうかを尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・小文字を読んでいる。〈行動観察・ワークシート〉
4	自分ができることを考え、友達と積極的に交流しようとするとともに、他者ができることについて紹介する表現を知る。 【C】“He can run fast. She can sing well.” P.35 【A2】「友だちにインタビューをしてサインをもらおう。」P.37 ○「Who is he? Who is she? クイズ」 【L3】「どの人物のことかな」P.40 ○ Sounds and Letters「アルファベットの小文字を書こう。」	○	○	○	・友達と積極的に交流しようとしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・他者ができることについて紹介する表現を聞いたり、言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・小文字を読んでいる。

					〈行動観察・ワークシート〉
5	他者ができることについて紹介する表現に慣れ親しむ。 【C】 “He can run fast. She can sing well.” P.35 【WT2】 「できることやできないことを聞く。」（さとの紹介） ○ 「Who is he? Who is she? クイズ」 【STORY TIME】 P.41 ○ Sounds and Letters アルファベットの小文字を書こう。」		○	○	・ 他者ができることについて紹介する表現を聞いたり、言ったりしている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・ 小文字を読んでいる。 〈行動観察・ワークシート〉

1ー単元 10

She can run fast. He can jump high. 1/5 時間

目 標 動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード (スポーツなど)、ワークシート、デジタル教材、
振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○「先生のできること・できないことを知ろう。」 ・児童は指導者の質問に Yes. / No. で答える。	・指導者は教師用絵カードを見せながら、「できること」「できないこと」を紹介する。児童にも Can you ~? と尋ねる。 ・表情やジェスチャーをつけて言うことで、can と can' t の意味の違いに気づかせる。	教師用絵カード (スポーツなど)
○「ジェスチャーゲーム」 ・児童は何の動作かを言い当てる。 ・児童は指導者の質問に答える。	・指導者は p. 37 の誌面の絵にある動作のジェスチャーをして、何の動作か考えさせる。 ・指導者は何のジェスチャーか当てた児童に、その動作について Can you ~? と尋ねる。 ・慣れてきたら、代表児童を出題者にする。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Play 1】p. 34-35 「どの動物か当てよう」 ・音声を聞いてそれぞれの動物のできることを聞き取り、特徴を知る。	・初めに紙面からわかることを全体で共有する。(どんな場面なのか、どんな動物がいるか) ・カンガルーとカバの表現に気をつけて聞かせる。 カンガルー: I can jump long カバ : I can run fast.	
○【Let' s Listen 1】p. 36 「どの動物のことか、男の子のことか聞こう。」 ・音声を聞いてどの動物(男児)なのかを考え、イラストの下に番号を記入する。	・p. 34-35 のイラストでこの動物(男児)がどこにいるか確認してから取り組むとよい。 ・sing や swim などの単語が分からない場合は、指導者がジェスチャーなどでヒントを出すようにする。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Listen2】p. 36「どの動物のことか聞こう。」 ・音声を聞いてどの動物かを考え、イラストの下に番号を記入する。	・p. 34-35 のイラストでこの動物(男児)がどこにいるか確認してから取り組むとよい。 ・単語が分からない場合は、指導者がジェスチャーなどでヒントを出すようにする。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Chant】p. 35 “Can you sing well?” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	児童用テキスト デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りシートに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知ることができる。【気】

(行動観察・振り返りカード分析)

1-単元 10

She can run fast. He can jump high. 2/5 時間

目 標 動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート(Unit8-4)、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Chant】 p. 35 "Can you sing well?" ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Play 2】 p. 37 「ポインティングゲーム」	・指導者は誌面にある動作表現を言う。児童は絵をさし示して指導者のあとについて繰り返し言う。 ・ひと通り動作表現を確認したら、I can ～. と言ったら指し示すが、I can't ～. のときは指し示さないようにし、違いを意識させる。	児童用テキスト デジタル教材
○「Who am I クイズ」 ・児童はどれのことかを当てる。	・指導者は【Let's Listen 1】、【Let's Listen 2】の人物や動物のうち、どれかになりきって、できることやできないことを紹介する。 ・2回ほど指導者が行い、あとはグループでクイズを作らせる。各グループに発表させ、みんなで答えを考えさせる。	児童用テキスト デジタル教材
○「○×クイズ」 ・児童は指導者に Can you ～? と尋ね、指導者が Yes, I can. / No, I can't. で答える。	・指導者は教師用絵カードを見せながら、指導者ができる (○) かできない (×) か予想させ、教室内の右 (○) 左 (×) に分かれさせる。 ・慣れてきたら代表児童にさせる。	教師用絵カード
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・イラストの初めの音が同じものを5つ見つけて小文字で書くことができる	・前単元で使用したワークシートをもう一度活用するなど、児童の実態に合わせ小文字を書く活動を適時取り入れる。	ワークシート (Unit8-4)
・本時の活動をふり返る。振り返りシートに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり、言ったりしている。

【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉

・小文字を読んでいる。【慣】〈行動観察・ワークシート〉

1-単元 10	She can run fast. He can jump high.	3/5 時間
目 標	できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、自分ができることを考える。	
準 備	児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート(Unit5-4) (Unit8-5)、デジタル教材、振り返りカード	

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Chant】 p. 35 “Can you sing well?” ・音声を聞き絵カードを見ながら言う	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	児童用テキスト デジタル教材
○【Activity 1】 p. 37 ・ペアになり、誌面の 15 種類の動作について、相手ができるかどうかを予想して欄に○や△を書く。 ・予想し終わったら Can you ～?でインタビューし合う。結果を欄に書く。	・すべての動作について、No, I can't. と答えそうな児童をあらかじめ想定しておき、インタビューのときに声がけをして自信を持たせるようにする。	児童用テキスト デジタル教材
○「Who am I? クイズ」 ・児童は指導者に Can you ～?で尋ね、指導者はインタビュー結果をもとに答える。その答えからだれのことかを当てる。	・指導者は直前の活動 Activity 1 のインタビュー結果を使い、ある児童になりきり、できることやできないことを I can ～. / I can't ～. で紹介し、それがどの児童のことか推測させる。	
○【Let's Watch and Think 2】 p. 38 「できることやできないことを聞こう。」 (John と Christina の会話) ・デジタル教材で 2 人の子供ができることやできないことを尋ねたり答えたりするのを視聴し、具体的な情報を聞き取る。できることに○、できないことに△をつける。	・児童の実態に合わせて、デジタル教材を視聴する前に誌面の絵を見ながら予想を立てるとともに、語句の確認をするとよい。 ・1 回目は全体を視聴し、2 回目以降は途中で止めて答えを確認するなど、児童の実態に合わせて取り組むとよい。 ・児童は、視聴して、自分の答えが合っているかを確認する。	児童用テキスト デジタル教材
○「自分を紹介しよう。」 ・自分ができることを考え、その絵をワークシートに描く。 ・代表児童ができることを紹介する。	・できることに自信を持ってない児童の支援をしながら、描いている絵が少ない児童を把握しておく。	ワークシート (Unit5-4)
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・イラストの初めの音が同じものを 5 つ見つけて小文字で書くことができる	・前単元で使用したワークシートをもう一度活用するなど、児童の実態に合わせ小文字を書く活動を適時取り入れる。	ワークシート (Unit8-5)
・本時の活動をふり返る。振り返りシートに記入する。・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・できるかどうかを尋ねたり答えたりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・小文字を読んでいる。【慣】〈行動観察・ワークシート〉

1ー単元 10

She can run fast. He can jump high. 4/5 時間

目 標 自分ができることを考え、友達と積極的に交流しようとするとともに、他者ができることについて紹介する表現を知る。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード、ワークシート(Unit8-6)、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let' s Chant】 p. 35 “He can run fast. She can sing well.” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	児童用テキスト デジタル教材
○【Activity 2】 p. 37 「友だちにインタビューをしてサインをもらおう。」 ・児童は誌面を持って教室内を歩きまわり、出会った友達に Can you ～? で尋ねる。できると答えた児童から誌面にサインをもらう。	・「Hi. / Thank you. / Bye」の表現も使わせるようにする。 ・活動後、インタビューしてみて意外だったことや気付いたことなどを発表させる。	児童用テキスト デジタル教材
○「Who is he? Who is she? クイズ」 ・誰かのできること、得意なことへのヒントを聞いて、それが誰のことなのかを当てる。	・指導者は直前の活動 Activity 1 のインタビュー結果を使い、ある児童について、He[She] can ～. / He[She] can' t ～. で紹介し、それがどの児童のことか推測させる。 ・児童はここではじめて三人称の he / she に出会う。男女をバランスよく取り上げることで、he と she の使い方に慣れさせるとよい。	
○【Let' s Listen 3】 p. 40 「どの人物のことかな。」 ・音声を聞いてどの人物か考え、イラストの下の () に番号を記入する。	・分からない児童がいる場合は、何度も繰り返し聞くようにする。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・イラストの初めの音が同じものを5つ見つけて小文字で書くことができる	・前単元で使用したワークシートをもう一度活用するなど、児童の実態に合わせ小文字を書く活動を適時取り入れる。	ワークシート (Unit8-6)
・本時の活動をふり返る。振り返りシートに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・友達と積極的に交流しようとしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・他者ができることについて紹介する表現を聞いたり、言ったりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・小文字を読んでいる。【慣】〈行動観察・ワークシート〉

1-単元 10

She can run fast. He can jump high. 5/5 時間

目 標 他者ができることについて紹介する表現に慣れ親しむ。

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード, ワークシート(Unit8-8), デジタル教材, 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let' s Chant】 p. 35 “He can run fast. She can sing well.” ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う	・デジタル教材を視聴しながら児童と一緒に歌う。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Watch and Think 2】 p. 38 (さとしの紹介) ・2人の会話を聞いていたさとしがその情報をまとめながら He / She を使って紹介するのを視聴し、分かったことを誌面に記入する。	・児童は、視聴して、自分の答えが合っているかを確認する。 ・内容が分かるように、必要に応じて何度か書かせるようにする。	児童用テキスト デジタル教材
○「Who is he? Who is she? クイズ」	・指導者はあらかじめ学校の他の先生にできること／できないことを尋ねておき、メモを用意しておく。 ・グループである先生について、He[She] can ~. / He[She] can' t ~. で紹介し、それがどの先生のことか推測させる。 ・グループ全員で発表させるようにする。	校内の先生に関するできることを調べる
○【STORY TIME】 p. 41 ・カズとマリアの絵本の読み聞かせを聞く。	・吹き出しにある表現なら読めるという意欲をもたせる。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters ・単語を聞いて、最初の音のアルファベットの小文字を書く。	・単語を聞かせ、最初の音のアルファベットの小文字を書かせる。	ワークシート (Unit8-8)
・本時の活動をふり返る。振り返りシートに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・他者ができることについて紹介する表現を聞いたり、言ったりしている。
【慣】行動観察・振り返りカード点検
- ・小文字を読んでいる。【慣】〈行動観察・ワークシート〉

5 学年—単元 11

Where is the treasure?

単元目標

- ・進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。
- ・道案内や、物の位置を尋ねたり答えたりする表現に触れる。また、活字体の小文字を読んだり書いたりすることに触れる。
- ・日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気付く。

単元評価規準

- ・進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしている。
- ・道案内や物の位置を尋ねたり答えたりしている。また、活字体の小文字を読んだり書いたりしている。
- ・日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気づいている。

表現

Where is the treasure? Go straight(for three blocks). Turn[right/left](at the third corner). You can see it on [right/left]. It's[on/in/under/by] (the desk).

単元計画（4時間）

時	目標と主な活動 【 】＝誌面化されている活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準＜方法＞
1	道案内や、物の位置を尋ねたり答えたりする表現に慣れ触れる。また、活字体の小文字を読んだり書いたりすることに触れる。 ○Small Talk：宝物 ○「物の位置を知ろう」 ○【W T】「さがしているものはなにかな。」 ○「コマンドゲーム（位置）」 ○【C】“Where is the treasure.” パート② ○Let's Read and Write 「はじめの文字はなにかな。」			○	・物の位置を尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞ ・活字体の小文字を読んだり書いたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞
2	部屋の中の物についての説明や部屋の様子を聞いて、位置関係を表す表現に慣れ親しむ。 ○Small Talk：部屋の様子 ○【L1】「さがしているものは何？」 ○【P2】「友達の欲しいものは何？」 ○【L2】「だれの部屋かな？」 ○【P3】「友達の選んだ部屋は何番？」 ○【C】“Where is the treasure.” パート② ○Let's Read and Write			○	・物の位置を尋ねたり答えたりしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞
3	日本語と英語では、道案内の仕方に違いがあることに気付く。 ○Small Talk：地域の施設 ○「What's this? ゲーム」 ○「コマンドゲーム（道案内）」 ○【L3】「道案内を聞こう」 ○【C】“Where is the treasure?” パート① ○Let's Read and Write			○	・日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気づいている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞
4	進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。 ○Small Talk：好きな場所 ○「サイモンセズゲーム」 ○【C】“Where is the treasure? パート①” ○【P4】「友だちの道案内を聞いて、目的地をさがそう。」 ○【L4】「どこに行くのかを考えよう」 ○【STORY TIME】			○	・進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞

1ー単元 11	Where is the treasure? 1/4 時間
目 標	道案内や物の位置を尋ねたり答えたりする表現に触れる。活字体の小文字を読んだり書いたりすることに触れる。
準 備	児童用テキスト, 消しゴム, Small Talk 用の写真, 教師用絵カード (前置詞, 物), ワークシート (Unit 7-6), デジタル教材, 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 宝物 ・指導者の話を, 反応を示したり, 質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・宝物について話す。顔の表情豊かにジェスチャーを付けて児童が理解できるように話す。	宝物やその写真など
○「物の位置を知ろう」 ・指導者のデモンストレーションを聞いて, on, in, under, by の意味を理解する。	・鉛筆や消しゴムなど身近な文房具を使って実際に机や椅子の上, 中, 下, 横に置く。その際, “It’ s on the desk.” などと言いながら, 意味を理解させる。	机, 椅子 身近な文房具 教師用絵カード (on/in/under/by)
○【Let’ s Watch and Think】p. 51 「さがしているものはなにかな。」 ・p. 50-51 にあるものの名前を確認する。 ・音声を聞き, 登場人物が探しているものを見つける。	・この活動は位置を表す表現 on/in/under/by を繰り返し聞かせることを狙いとしている。慣れてきたら, 指導者が Where is ~? と質問し, 児童に答えさせてもよい。 ・clock や hat, map は <u>on</u> the wall となることに注意して指導を行う。	児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (物)
○「コマンドゲーム (位置)」 ・児童は指導者が言ったことを復唱しながら, その場所に消しゴムを置く。	・指導者は児童に消しゴムを机の上に置くように指示する。 ・指導者は Put your eraser on your notebook. などと言う。 ・指導者も実際に自分の消しゴムを置き, 答え合わせをする。 ・位置関係の語は習得に時間がかかるため, 何度も繰り返して使うことで慣れるようにする。 ・鉛筆, ペン, ものさしなどでも行う。 ・慣れてきたら, ペアを組み, じゃんけんで勝ったほうが指示をし, 負けたほうが物を置くゲームをする。	消しゴムなど 児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (on/in/under/by)
○【Let’ s Chant】p. 52 “Where is the treasure.” パート② ・音声を聞き絵カードを見ながら言う。	・慣れてきたらスピードを変えて意欲を高める。	デジタル教材 教師用絵カード (on/in/under/by, 物)
○Let’ s Read and Write ・8つのイラストの語を確認してから, その語の最初の小文字を5つの文字の中から選んで4線に書く	・ワークシート (Unit 7-6) を書く ・アルファベットの小文字を機械的に書かせるのではなく, 単語の中の1文字として書かせるようにする。	デジタル教材 ワークシート (Unit 7-6)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・物の位置を尋ねたり答えたりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・活字体の小文字を読んだり書いたりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉

1ー单元 11

Where is the treasure? 2/4 時間

目 標 部屋の中の物についての説明や部屋の様子を聞いて、位置関係を表す表現に慣れ親しむ。

準 備 児童用テキスト, Small Talk 用のイラスト, 教師用絵カード (前置詞, 物), ワークシート (Unit 7-7)
デジタル教材, 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 部屋の様子 ・指導者の話を、反応を示したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・部屋の中にある物について話す。 on, in, under, by の前置詞を使って話すようにする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	部屋の見取り図のイラストなど
○【Let' s Listen 1】 p. 52 「さがしているものは何？」 ・音声を聞き、登場人物が探している物を見つける。	・物の名称だけでなく、位置関係を表す語を繰り返し聞かせ、慣れ親しませる。 ・音声以外の物も指導者がクイズを出す。 例: “It' s in the bag. It' s white.”	児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (on/in/under/by)
○【Let' s Play 2】 p. 52 「友達の欲しいものは何？」 ・誌面のイラストを見ながら、ペアで物の位置を表す語を使ってやり取りをする。	・はじめに指導者がモデルを示し、やり方を理解させる。 ・ペアを作り、誌面の中から一人があるものを選び、その場所に関するヒントを言う。もう一人がヒントを聞いて、それが何かを当てる。	児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (on/in/under/by)
○【Let' s Listen 2】 p. 53 「だれの部屋かな？」 ・音声を聞き、登場人物の部屋がどれかを記入する。	・児童の実態によって、音声を聞く前に4つの部屋の絵を見比べさせ、違いや場所の言い方を確認する。 ・「壁にかかっている物」は“on the wall”の表現を使うことを理解させる。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Play 3】 p. 53 「友達の選んだ部屋は何番？」 ・誌面の部屋の絵を見ながら、ペアでどの部屋を選んだかクイズ形式でやり取りをする。	・指導者と児童で活動のモデルを示し、進め方を理解させる。 ・1人が部屋を選ぶ。もう1人が、何がどこにあるか質問し、その答えから何番の部屋かを当てる。 ・質問は2回までなど条件をつけるのもよい	児童用テキスト デジタル教材 教師用絵カード (on/in/under/by)
○【Let' s Chant】 p. 52 “Where is the treasure.” パート② ・音声を聞き、絵カードを見ながら言う。	・慣れてきたらスピードを変えて意欲を高める。	デジタル教材 教師用絵カード (on/in/under/by, 物)
○Let' s Read and Write ・8つのイラストの語を確認してから、その語の最初の小文字を5つの文字の中から選んで4線に書く	・ワークシート (Unit 7-7) を書く ・アルファベットの小文字を機械的に書かせるのではなく、単語の中の1文字として書かせるようにする。	デジタル教材 ワークシート (Unit 7-7)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・物の位置を尋ねたり答えたりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉
- ・活字体の小文字を読んだり書いたりしている。【慣】〈行動観察・振り返りカード点検〉

1-単元 11

Where is the treasure? 3/4 時間

目 標 日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気づく。

準 備 児童用テキスト, Small Talk 用の写真, 教師用絵カード (建物), デジタル教材, ワークシート (Unit 7-8), 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備
・挨拶をする。 ○Small Talk : 地域の施設 ・指導者の話を, 反応を示したり, 質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・指導者が学校に来る際に通ったり, 見かけたりする施設について話す。一方的に話すのではなく, 児童に質問をし, 児童を巻き込むように話す。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	施設の写真 (学校周辺の馴染みのある施設)
○「What' s this? ゲーム」 ・児童は建物の絵カードの一部から, それが何か日本語で答える。 ・児童は英語での建物の言い方を知る。 (「ミッシングゲーム」に入れ替えてもよい。)	・p. 54 の誌面にある建物の教師用絵カードを一瞬だけ見せたり, その一部だけを見せたりしながら, その建物が何か尋ねる。 ・誌面にあるのは library, police station, post office, supermarket, fire station, bookstore, department store, gas station の 8 つの単語だが, この学年の児童にとって, 小学校で建物の単語を押さえられるのはこの单元だけなので, 必要に応じて単語を加える。 ・指導者は英語で答えを言う。	教師用絵カード (建物)
○「コマンドゲーム (道案内)」 ・児童は指導者の言う指示を繰り返して言いながら, その動作を行う。 (慣れてきたらサイモンゼズゲームに替えてもよい)	・Go straight. は足踏み, Turn right. は右を向く, Turn left. は左を向く, Stop で止まるという動作を示す ・デモンストレーションをして, 進め方を理解させるようにする。最初は児童が命令を聞き取りやすいように, ゆっくりはっきり発音する。	
○【Let' s Listen 3】 p. 54 「道案内を聞こう」 ・音声聞いて, 誌面の地図上で指を動かしながら, たどりついた建物を言う。	・はじめに, 地図を見ながら, どこにどのようなものがあるか, 共有しておく。(音声を聞かせて指で指し示す) ・児童の実態に応じて, 音声を一時停止しながら進める。その際は, 児童に音声に続けて繰り返言わせる。 “You can see it on your right(left).” の表現や “for one block” の表現を理解させる	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Chant】 p. 52 “Where is the treasure?” パート①	・慣れてきたらスピードを変えたり, 物や場所を児童に選ばせたりして意欲を高める。	デジタル教材
○Let' s Read and Write ・8つのイラストの語を確認してから, その語の最初の小文字を5つの文字の中から選んで4線に書く。	・ワークシート (Unit 7-8) を書く。 ・アルファベットの小文字を機械的に書かせるのではなく, 単語の中の1文字として書かせるようにする	デジタル教材 ワークシート (Unit 7-8)
・本時の活動を振り返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・本時のねらいに照らして児童を称賛する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・日本語と英語では道案内の仕方に違いがあることに気づいている。【気】〈行動観察・振り返りカード分析〉

1-単元 11

Where is the treasure? 4/4 時間

目 標 進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。

準 備 児童用テキスト、消しゴム、Small Talk用の校内地図、教師用カード（位置、建物）、デジタル教材、ワークシート(7-4)、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk:好きな場所 ・指導者の話を、反応を示したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・P. 54の地図を見せながら、自分の好きな場所を紹介する。(道案内をするように話す) ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	校内地図など
○「サイモンセズゲーム」 ・“Simon Says” がついていない指示のときに動作をしてしまった児童は座る。最後まで座らなかった児童の勝ち。	・指導者が“Simon says” に続けて言った動作をする。 ・(Simon says) go straight. / turn right. / turn left. / stop. などの動作の指示を出す。	
○【Let's Chant】p.52 “Where is the treasure?”パート①	・慣れてきたらスピードを変えたり、物や場所を児童に選ばせたりして意欲を高める。	デジタル教材
○【Let's Play 4】 p. 54 「友達の道案内を聞いて、目的地をさがそう。」 ・p. 54 の地図を使い、ペアになって活動を行う。一方が目的地を決めて、その目的地に向かうための道案内をする。もう一方は相手の指示通りに誌面上を移動し、相手が案内した建物が何かを言う。	・進め方の例を示す。 ・消しゴムなどの具体物をコマにして進めさせるとよい。	児童用テキスト 消しゴム デジタル教材
○【Let's Listen 4】 p. 56. 57 「どこに行くのかを考えよう。」 ・1 つめの道案内の音声聞いて、案内の通りに地図上を進む。目的地にたどりついたら、そこにあるものの名称を全員で確認し、そこにあるものの頭文字をワークシートの空欄に書きこむ。	・はじめに、地図を見ながら、どこにどのような道があるか、また、どこにどのようなものがあるか、指導者と児童で話し合い、共有しておく。 ・ワークシート(7-4)の空欄がすべて埋まると単語が完成し、宝箱に宝物が増えていくようになっている。	児童用テキスト ワークシート(7-4) デジタル教材
○【STORY TIME】 ・絵本の読み聞かせを聞く。	・日本にはたくさんの観光客が来ていることから、自分にも外国人へ道案内の機会があることを想定させて聞かせる。 ・誌面の吹き出しの中の英語を音声と一緒に読ませる。	児童用テキスト デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・進んで場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。【コ】 〈行動観察・振り返りカード分析〉

5 学年一単元 1 2

What would you like? (Hi, friends!1 と We can!1 を使用)

単元目標

- ・進んで欲しいものを尋ねたり答えたりしようとしている。【コ】
- ・丁寧に欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、簡単な語句や表現を書き写すことや、文字の音に慣れ親しむ。【慣】

単元評価規準

- ・世界の料理に興味を持ち、欲しいものを尋ねたりする際、丁寧な表現があることに気づく。【気】
- ・丁寧に欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を聞いたり、言ったりしている。【コ】
- ・簡単な語句や表現を書き写すことや、文字の音を聞いたり、言ったりしている。【慣】
- ・欲しいものを尋ねる際、丁寧な表現があることに気づいている。【気】

表現

What would you like? I'd like a hamburger.

食べ物・料理

hamburger, omelet, hamburger steak, salad, cake, spaghetti, hotdog, ice cream, pizza, yogurt, pudding, orange juice, parfait, sushi, natto sausages, fried chicken, green tea, miso soup, rice, bread, French fries

単元計画（7時間）

時	目標と主な活動	評価		
		コ	慣	気
1	丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現を知る。 ○【Small Talk】好きな食べ物(フルーツ) ○【L 1】(Hi, friends1) P.36 音声教材を聞いて、さくらとたくのフルーツパフェを選ぶ。 ○「ビンゴゲーム」果物でビンゴゲームをする。 ○【P】ペアになり、友達のフルーツパフェを作る。 ○【L 2】(Hi, friends1) P.37 音声教材を聞いて、さくら、祖母、祖父が注文した食べ物を選んで、誌面の絵に○をつける。 ○【C】“What would you like?” (Hi, friends1) P.37			○
2	丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○【Small Talk】好きな食べ物(ファミレスの料理) ○【L 2】(Hi, friends1) P.37 音声教材を聞いて、さくらの父、母が注文した食べ物を選んで、誌面の絵に○をつける。 ○【C】“What would you like?” (Hi, friends1) P.37 ○「ビンゴゲーム」食べ物でビンゴゲームをする。 ○「仲間さがしゲーム」食べ物絵カードの中から各自5枚を選び、教室を自由に動きながら友達とカードのやり取りをする。		○	
3	世界には様々な料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○【Small Talk】世界の料理 ○【C】“What would you like?” (Hi, friends1) P.37 ○【A 2】(Hi, friends1) P.40 音声教材を聞いて、誌面の給食がそれぞれどこの国のものか考え、□に番号を記入する。 ○【A 2】(Hi, friends1)「オリジナルの給食を作り合おう」誌面のある給食の中から欲しいものを1品ずつ選んでオリジナル給食を考える。 ○【Let's Watch and Think 1】(We can!1) P.59		○	○

	②と③のみ視聴しておおまかな内容を理解する			
4	相手意識をもって、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 ○【Jingle】“Foods Lingle?” P.59 ○【Let's Watch and Think 2】(We can!1) P.60 登場人物の家族がホテルのバイキングで注文している場面を視聴し、気づいたことを発表する。 ○【Let's Listen 1】(We can!1) P.61 登場人物の誰がその料理を注文したか聞き取り、線で結ぶ。 ○「ペアで注文し合おう」 ペアになり、1人がウェイター、1人が客となり、P.60-61のイラストを見ながら欲しい食べ物を注文し合う。 ○【Let's Watch and Think 1】(We can!1) P.59 ⑤と⑥のみ視聴しておおまかな内容を理解する	○	○	・欲しいものについて丁寧な表現で、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・世界には様々な料理があることに気付いている。〈行動観察・振り返りカード分析〉
5	レストランでの注文の仕方や値段の聞き方の表現に慣れ親しむ。 ○【Small Talk】物の値段 ○【Let's Listen 2・3】(We can!1) P.60-61 おばあさん、おじいさんが注文したメニューについて聞き取り、誌面に記入する。 ○「レストランで注文しよう」 P.64-65 グループの中で、注文や値段を尋ねたり答えたりして児童用カードを渡す。 ○【C】“What would you like?” (We can!1) P.61	○	○	・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねる表現や値段を尋ねる表現が聞き取れる。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・欲しいものやその値段について丁寧な表現で、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉
6	誰かのために目的を意識したメニューを作ることができる。 ○【Small Talk】○○のためのメニュー ○【Let's Listen 4】(We can!1) P.62 登場人物が他の登場人物の誰のためにどんなメニューを作ったかを聞き取り線で結ぶ ○【Let's Listen 5】(We can!1) P.62 登場人物のやりとりを聞いて値段を誌面に記入する。 ○【Activity】(We can!1) P.64-65 「誰かのために考えたメニューを作ろう」 誰のために作るメニューかを決め、ワークシートに児童用カードを貼ってメニューを作る ○【Let's Watch and Think 1】(We can!1) P.59 ①と④のみ視聴しておおまかな内容を理解する ○【C】“What would you like?” (We can!1) P.61	○	○	・誰かのために理由も含めてメニューを考えようとしている。〈行動観察・ワークシート〉 ・単語を視写しながら、スペシャルメニューを作ることができる。〈行動観察・ワークシート〉

7	自分の考えたスペシャルメニューを発表する。 ○【C】“What would you like?” (We can! 1) P.61 ○【Let's Listen 4】(We can!1) P.62 再度、音声を聞き、誰のためのメニューであるかの表現の仕方を確認する。 ○【Activity】(We can!1) P.64-65 ワークシートを示しながら、グループ内でスペシャルメニューを発表し合う。 ○【Let's Watch and Think 1】(We can!1) P.59 ⑦のみ視聴しておおまかな内容を理解する ○【STORY TIME】(We can!1) P.63 絵本の読み聞かせを聞いたり、読んだりする。				○ ・誰かのためのメニューについて丁寧な表現で、相手意識をもって発表している。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞
---	--	--	--	--	--

1ー単元12

What would you like ? 1/7 時間

目 標 丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現を知る。

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード (フルーツ), デジタル教材, ワークシート (パフェ用果物シート1
または2・ パフェグラス1または2) ※Hi, friends! 1 ワークシート集 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 好きな食べ物(フルーツ)	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・好きなフルーツについて話す。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Listen 1】 (Hi, friends!) p.36 ・音声を聞いて, さくらとたくのパフェを選ぶ。	・果物の言い方と What do you want? の表現を想起させる。	児童用テキスト デジタル教材
○「ビンゴゲーム」果物でビンゴゲームをする。(指導編 Hi, friends! 2 p.30 参照) ・指導者に What do you want? と質問し, 指導者が答える果物があればチェックをしてビンゴをする。	・各児童に, ワークシートを配布し, 教師用カードの中から, 好きなフルーツを選んでビンゴシートの書かせる。 ・児童に What do you want? と尋ねさせ, ~, please. と果物を答える。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Play】 Hi, friends! 1 p.36 ・ペアになり, 欲しい果物を尋ね, 前活動で使った果物絵カードをワークシート (パフェグラス1または2) に貼って, 友達にフルーツパフェを作る。	・ワークシートを配布し, ペアで相手のフルーツパフェを作らせる。 ・What do you like? や Do you like ~? の表現も使えることを紹介する。 (デジタル教材を使って, 児童に欲しい果物を尋ねてフルーツパフェを作ることでもある。)	教師用絵カード ワークシート (パフェ用果物シート1または2・ パフェグラス1または2) ※Hi, friends! 1 ワークシート集
○【Let's Listen 2】 (Hi, friends!) p.37 ・音声教材を聞いて, さくら, 祖母, 祖父がそれぞれ注文した食べ物を選んで, 絵に○をつける。	【Let's Listen 2】 p.37 ・音声教材を聞いて, さくら, 祖母, 祖父がそれぞれ注文した食べ物を選んで, 絵に○をつける。 ※店員が “What would you like ?” という表現を使っていることから, これまで使っていた “What do you want ?” より丁寧な言い方になっていることに気づかせる。 また, 欲しいものを言うときは “I want ~.” ではなく “I'd like ~.” を使っていることにも気づかせる。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Chant】 “What would you like? ” (Hi, friends!) P.37・音声教材を聞き, 一緒に言う。	・音声教材を聞かせ, 教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・欲しいものを尋ねたり言ったりする際, 丁寧な表現があることに気付いている。【気】＜行動観察・振り返りカード分析＞

目 標 丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード(食べ物), 巻末児童用絵カード (食べ物) デジタル教材, 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・ 挨拶をする。 ○Small Talk : 好きな食べ物 (ファミレスの料理)	・ 全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・ 好きなファミレスの料理について話す。 ・ 一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・ 本時のめあてと流れを児童と確認する。	教師用絵カード (料理)
○【Let's Listen 2】 (Hi, friends!) P. 36 ・ 音声教材を聞いて、さくらとたくのフルーツパフェを選ぶ	・ 音声教材を聞かせ、パフェを選ばせる。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Listen 2】 (Hi, friends!) p. 37 ・ 音声教材を聞いて、さくらの母、父がそれぞれ注文した食べ物を選んで、絵に○をつける。	【Let's Listen 2】 p. 37 ・ 音声教材を聞いて、さくらの母、父がそれぞれ注文した食べ物を選んで、絵に○をつけさせる。 ・ 欲しいものについての丁寧な表現と食べ物の言い方に慣れさせる。	教師用絵カード (食べ物) デジタル教材
○【Let's Chant】 “What would you like?” (Hi, friends!) p. 37 ・ 音声教材を聞き、一緒に言う。	・ 音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	デジタル教材
○ビンゴゲームをする。 ・ 巻末児童用絵カードをビンゴシートに3列×3列に並べる。 ・ 指導者に What would you like? と質問し、指導者が答える食べ物があればそのカードを裏返す。	・ 児童に What would you like? と質問させ、I'd like ～. と食べ物を答える。	ビンゴシート (3×3) 巻末児童用絵カード (食べ物)
○仲間さがしゲームをする。	・ 代表児童とデモンストレーションをし、やり方を理解させる。	巻末児童用絵カード (食べ物)
【仲間さがしゲームの進め方】 ①各児童は、巻末児童用絵カードから選んだ5枚を持ち、教室内を自由に移動する。 ②出会った友だちとじゃんけんをし、負けた方が What would you like? と尋ね、勝った方は自分が欲しい食べ物を I'd like ～. と言って求める。 ③その食べ物があれば、Here you are. と言ってそのカードをすべて渡し、代わりに渡した枚数分、相手からカードをもらう。なければ、Sorry. と言って別れる。 ④時間内に1種類のカードをたくさん集めた児童が勝ちとなる。		
・ 本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・ 挨拶をする。		振り返りカード

評価

・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。【慣】＜行動観察・振り返りカード点検＞

1-単元12

What would you like ? 3/7時間

目 標 世界には様々な料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（食べ物）、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk：世界の料理	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・ピザなど世界の料理について話す。 ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Chant】“What would you like?” (Hi, friends1) P.37・音声教材を聞き、一緒に言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	デジタル教材
○【Activity 2】(Hi, friends1)p.40 ・それぞれの給食が、どこの国のものか予想する。予想した理由も発表する。 ・音声教材を聞いて、給食がそれぞれどこの国のものか聞き取り、□に番号を記入する。	・4種類の給食の特徴に触れ、その違いについて気付きを促し、それぞれが4カ国のうちどこのものかと思うか尋ねる。 ・予想を確かめるため、音声教材を聞かせ、答えを確認する。	デジタル教材
○【Activity 2】(Hi, friends1)p.40 「オリジナルの給食を作り合おう」	・音声教材を聞いて、給食を確認する。 ・指導者はほしいものを数名の児童に“What would you like?”で尋ねる。児童は指導者の質問に自分がほしいものを“I'd like ~.”で答える。 ・児童はペアになり、誌面にあるそれぞれの給食の中からほしいものを1品ずつ選んで“What would you like?” “I'd like ~.”のやり取りをしてオリジナル給食を考える。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Watch and Think 1】 「世界の料理を見てみよう」 (We can!1) P.59 ・②と③のみ視聴しておおまかな内容を理解する。	・視聴する前に、P.58-59の絵に十分触れさせるようにする。 ・デジタル教材を視聴し、世界の料理について感じたことを全体で共有する。	児童用テキスト デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。【慣】＜行動観察・振り返りカード点検＞
- ・世界には様々な料理があることに気付いている。【気】＜行動観察・振り返りカード分析＞

1ー単元12

What would you like ? 4/7 時間

目 標 相手意識をもって、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード(料理)、デジタル教材、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○【Jingle】“Foods Jingle ?”P.59	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・26文字の食べ物のジングルに慣れ親しむ。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let' s Watch and Think 2】 (We can!1) P.60 ・登場人物の家族がホテルのバイキングで注文している場面を視聴し、気づいたことを発表する。	・注文する場面を視聴し、英語でも場に応じた丁寧な言い方があることを確認する。 “What would you like ?” と “What do you want ?” を比較させながら聞かせるとよい。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Listen 1】(We can!1) P.61 ・登場人物の誰がその料理を注文したか聞き取り、線で結ぶ。	・はじめに父母が注文しそうなものを予想させ、聞く意欲を高める。 ・聞き取りのポイントを段階的に分けて説明する。 “I' d like～.” という表現に気を付けさせる。	児童用テキスト デジタル教材
○「ペアで注文し合おう」 ・ペアになり、1人がウェイター、1人が客となり、P.60-61のイラストを見ながら欲しい食べ物を注文し合う。	・ペアになり、ウェイターと客に分かれる。 ・イラストを見ながら注文をし、“What would you like ?” と “I' d like～.” の表現に慣れ親しませる。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Watch and Think 1】 「世界の料理を見てみよう」 (We can!1) P.59 ・⑤と⑥のみ視聴しておおまかな内容を理解する。	・デジタル教材を視聴し、世界の料理について感じたことを全体で共有する。	児童用テキスト デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・欲しいものについて丁寧な表現で、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。【コ】<行動観察・振り返りカード点検>
- ・世界には様々な料理があることに気付いている。【気】<行動観察・振り返りカード分析>

目 標
準 備

レストランでの注文の仕方や値段の聞き方の表現に慣れ親しむ。
 児童用テキスト, 教師用絵カード (食べ物), 児童用絵カード (食べ物)
 デジタル教材, 数カード(4桁), 値段表ワークシート, 電卓, 振り返りカード,
 ワークシート Unit8-3

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 物の値段	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・物の値段について話す。 ・AETもしくは児童とやり取りをし “How much?” の表現に触れる。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Listen 2・3】 (We can!1) P.60-61 ・おばあさん, おじいさんが注文したメニューについて聞き取り, 誌面に記入する。	・はじめに祖父母が注文しそうなものを予想させ, 聞く意欲を高める。 ・必要に応じて一時停止をしたり, 繰り返し聞かせたりするなど工夫をする。 ・値段を聞く “How much?” の表現に慣れさせる。 ・4桁までの数の言い方については適宜復習をする。	児童用テキスト デジタル教材 数カード(4桁)
○「レストランで注文しよう」 (We can!1) P.64-65 ・グループの中で, 注文や値段を尋ねたり答えたりして児童用カードを渡す。	・活動に入る前に, グループでウェイター(ウエイトレス), レジ係(キャッシャー), 客の役割を決めさせる。 ・レジ係は値段表に各コーナーごとの料理の値段を書き入れさせる。(細かい数字にしないように伝える。) ・3桁の数字の言い方を確認する。 (ワークシート Unit8-3 を使用するとよい) ・客はウェイターと注文のやり取りをした後, 絵カードをもらい, レジ係と支払いのやり取りをする。 ・役割を替えて注文し合う。 ・可能であれば模擬紙幣を使ってもよい。	児童用絵カード (食べ物) 値段表ワークシート ワークシート Unit8-3 電卓
○【Let's Chant】 “What would you like?” (We can!1)p. 61 ・音声教材を聞き, 一緒に言う。	・音声教材を聞かせ, 教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねる表現や値段を尋ねる表現が聞き取れる。【慣】 <行動観察・振り返りカード点検>
- ・欲しいものやその値段について丁寧な表現で, 相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。【コ】 <行動観察・振り返りカード点検>

メニュー値段表

メインディッシュ	サイドディッシュ	パン・ごはん	デザート	ドリンク
beefsteak ¥	pizza ¥	rice ball ¥	ice cream ¥	milk ¥
fried chicken ¥	omelet ¥	bread ¥	fruits ¥	green tea ¥
curry and rice ¥	salad ¥	rice ¥	cake ¥	coffee ¥
ramen ¥	French fries ¥	miso soup ¥	parfait ¥	mineral water ¥
grilled fish ¥	<i>gyoza</i> ¥	corn soup ¥	<i>daifuku</i> ¥	soda pop ¥
spaghetti ¥				

のためのスペシャルメニュー

Class _____ Name _____

<メニュータイトル>

Meal

This is meal for

メニューを作る相手

I'd like

メニューの内容

This is good meal for

(perfect meal)

メニューを作る相手

He(She)is

He(She) likes

選んだ食べ物カード

- 目 標** 誰かのために目的を意識したメニューを作ることができる。
- 準 備** 児童用テキスト, 教師用絵カード (食べ物), 児童用絵カード (食べ物) ワークシート, デジタル教材, 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : ○○のためのメニュー	・全体に挨拶し, 個別に数名の児童に挨拶する。 ・誰かのために考えたメニューについて話す。 (例: AET, 有名人, ○○先生, 家族) ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	教師用絵カード (食べ物)
○【Let' s Listen 4】(We can!1)P.62 ・登場人物が他の登場人物の誰のためにどんなメニューを作ったかを聞き取り線で結ぶ。	・登場人物が他の登場人物のためにどのようなメニューを作ったか聞き, 誌面の人物とメニューを線で結ぶ。 ・理由を話しているのを聞いて, 次時の発表の参考にさせる。(メニューのネーミングに注目させる)	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Listen 5】(We can!1)P.62 ・登場人物のやりとりを聞いて値段を誌面に記入する。	・理由を再度確認させる。 ・数字に注意を向けさせ, 聞き取らせる。	児童用テキスト デジタル教材
○【Activity】(We can!1) P.64-65 「誰かのために考えたメニューを作ろう」 ・誰のために作るメニューかを決め, ワークシートに児童用カードを貼ってメニューを作る。	・P.64-65の見開きの中から料理を選び, スペシャルメニューを考える。 ・目的意識をもって, 誰のために合うメニューにするのか, その理由とネーミングを考えさせ, ワークシートに書かせる。 ・児童用カードを貼り, 単語を写し書く。家族の名称や名前も書かせる。 ・メインディッシュ, サイドディッシュ, デザート, ドリンクの4つから選ばせる。	教師用絵カード 児童用絵カード (食べ物) ワークシート
○【Let' s Watch and Think 1】 「世界の料理を見てみよう」 (We can!1) P.59 ・①と④のみ視聴しておおまかな内容を理解する。	・デジタル教材を視聴し, 世界の料理について感じたことを全体で共有する。	児童用テキスト デジタル教材
【Let' s Chant】 “What would you like?” (We can!1)p. 61 ・音声教材を聞き, 一緒に言う。	・音声教材を聞かせ, 教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り, 形や高さに注意しながらワークシートに書く。		デジタル教材 ワークシート
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・誰かのために理由も含めてメニューを考えようとしている。【コ】〈行動観察・ワークシート〉
- ・単語を視写しながら, スペシャルメニューを作ることができる。【慣】〈行動観察・ワークシート〉

目 標 自分の考えたスペシャルメニューを発表する。

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード, デジタル教材, 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
【Let's Chant】 “What would you like?” (We can!1)p. 61 ・音声教材を聞き、一緒に言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。	デジタル教材
○【Let's Listen 4】 (We can!1)P.62 ・再度、音声を聞き、誰のためのメニューであるかの表現の仕方を確認する。	・発表の参考になるように、再度、登場人物が注文した料理を確認し、それは誰のためにどんな理由で取りそろえたのか聞く。	児童用テキスト デジタル教材
○【Activity】 (We can!1) P.64-65 ・ワークシートを示しながら、グループ内でスペシャルメニューを発表し合う。	・グループになり、誰のためにどんなメニューなのかを発表し合う。 ・グループの中から代表発表者を決める。代表発表者は、全員の前で発表し、他の児童は感想を言ったり質問をしたりする。	ワークシート
○【Let's Watch and Think 1】 「世界の料理を見てみよう」 (We can!1) P. 59 ・⑦のみ視聴しておおまかな内容を理解する。	・デジタル教材を視聴し、世界の料理について感じたことを全体で共有する。	児童用テキスト デジタル教材
○【STORY TIME】 (We can!1) P.63 ・絵本の読み聞かせを聞いたり、読んだりする。	・Kazu が Maria たちとサッカーをする場面の話を聞いたり読んだりする。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。		デジタル教材 ワークシート
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・誰かのためのメニューについて丁寧な表現で、相手意識をもって発表している。【慣】＜行動観察・振り返りカード点検＞

5 学年—単元 1 3

Who is your hero? あこがれの人

- 単元目標**
- ・自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介しようとしている。【コ】
 - ・第三者(彼・彼女)が得意なことを表す表現に慣れ親しむ。また、簡単な語句や表現を書き写すことや、文字の音に慣れ親しむ。【慣】

- 単元評価規準**
- ・英語と日本語では、書き方に違いがあることに気づく。【気】
 - ・第三者(彼・彼女)が得意なことを表す表現を聞いたり、言ったりしている。【コ】
 - ・簡単な語句や表現を書き写すことや、文字の音を聞いたり、言ったりしている。【慣】
 - ・英語と日本語では、書き方に違いがあることに気づいている。【気】

表現 基本文 : Who is your hero ? This is my hero. [He/She] is good at (playing tennis).

[He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook well).

[He/She] is [kind/cool/great/strong/gentle/active/brave/funny]

単 語 : hero, flute, family, active, cool, fantastic, friendly, gentle, kind, brave, funny, strong, tough, fox, yak, zebra, zoo

単元計画 (5時間)

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準<方法>
1	得意なことの表現の仕方がわかる。 ○【Small Talk】校内の先生 ○【Let' s Watch and Think】P.66-67 ・映像資料を視聴し、自分にとってのヒーロー(ヒロイン)について話すのを聞き、分かったことを発表する。 ○【Let' s Listen1】P.68 ・登場人物が得意なことを聞いて、線で結ぶ。 ○【Let' s Talk】得意かどうか聞いてみよう ・ペアになり、得意かどうかを尋ね合う。 ○【Let' s Chant】“Who is your hero?” P.67 ○Sounds and Letters(ワークシート Unit9-6) ・「アルファベットの小文字を書こう。」	○			・得意なことの表し方がわかり、伝え合おうとしている。 <行動観察・振り返りカード分析>
2	第三者のできることや得意なことを聞いたり言ったりできる。 ○【Let' s Listen2】P.68 ・音声を聞いて、登場人物と得意なことやできることのイラストを線で結ぶ。 ○【Who is he/she?】どの先生かな? ・指導者の紹介するヒントを聞いて、どの先生のことを言っているのかを当てる。 ○【Let' s Play 1】P.71 ・ペアで誌面の絵をヒントに、できるだけ質問をして相手のことを知る。 ○【Let' s Play 2】P.71 ・他のペアに Let' s Play 1 で得た情報を元に he/she can～. で紹介する。 ○【Let' s Chant】“Who is your hero?” P.67 ○ Sounds and Letters(ワークシート Unit9-7) 「アルファベットの小文字を書こう。」	○			・第三者について紹介する表現を聞き、指導者を真似て言うことができる。<行動観察> ・第三者についてできることや得意なことを伝え合おうとしている。 <行動観察・振り返りカード分析>
3	自分や第三者のできることや得意なことについて、聞いたり言ったりすることができる。 ○【Small Talk】好きな有名人 ○【Let' s Listen3】P.69 ・音声を聞いて、スポーツ選手について聞き取っ	○			・第三者のできることや得意なことについて

	たことを記入する。 ○【Activity 1】 P. 69 ・自分ができると、得意なことを含めてペアで伝え合い、その内容を誌面に記入する。 ・誌面に記入したペアの相手のことについて、別の友達と伝え合う。 ○【Let's Chant】 “Who is your hero?” P. 67 ○ Sounds and Letters(ワークシート Unit9-8) 「アルファベットの小文字を書こう。」	○	聞き取ることができる。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞ ・自分のできるとや得意なことについて伝え、相手や第三者について聞こうとしている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞
4	あこがれの人の話を聞き、その人のできるとや得意なことがわかる。 ○【Small Talk】 あこがれの人の ○【Let's Listen 4】 P. 70 ・先生の大変な人やあこがれの人の話について聞き、分かったことを書く。 ○【Let's Listen 5】 P. 70 ・登場人物の紹介を聞き、分かったことをメモに取り全体で共有する。 ○【Activity 2】 P. 72 ・登場人物が自分のヒーローについて紹介する音声を聞き、内容を理解する。 ・自分のヒーローを紹介する練習をする。 ○ Sounds and Letters(ワークシート Unit9-9) 「アルファベットの小文字を書こう。」	○	・あこがれの人の話を聞き、できるとや得意なことなど、どのような人か分かっている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞
5	他者に配慮しながら、自分のあこがれの人の話について、自分の意見を含めて伝えようとしている。 ○【Let's Chant】 “Who is your hero?” P. 67 ○【Activity 2】 P. 72 ・グループ内で自分のヒーローを紹介する。聞いている児童は、聞き取れたことをメモしたり、話者の良かった点を記入したりする。 ・グループ代表を決め、全体の前で発表し、良かった点を共有する。 ○【STORY TIME】 ・読み聞かせに合わせて、セリフや繰り返し音声で慣れ親しんだ文と一緒に読む。 ○ Sounds and Letters(ワークシート Unit9-10) 「アルファベットの小文字を書こう。」	○	・他者に配慮しながら、自分のあこがれの人の話について、自分の意見を含めて伝えようとしている。 ＜行動観察・振り返りカード分析＞

1-単元 13

Who is hero ? 1/5 時間

目 標 得意なことの表現の仕方がわかり、伝え合おうとする。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（動作）、デジタル教材、ワークシート(Unit 9-6)、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○Small Talk : 校内の先生	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・児童に馴染みのある先生の得意なことについて話す。 ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let' s Watch and Think】P.66-67 ・映像資料を視聴し、自分にとってのヒーロー(ヒロイン)について話すのを聞き、分かったことを発表する。	・既習の can に加えて、何度も“good at”という表現が出てくことに気づかせ、学級の児童を例に挙げるなどして、それが「得意である」という意味を捉えさせる。 ・本単元の最後で紹介したい自分のヒーローを考えておくよう伝え、活動への見通しをもたせる。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let' s Listen1】P.68 ・登場人物が得意なことを聞いて、線で結ぶ。	・答えの確認をした後、誌面にある動作について“Are you good at~?”と問いかけ、この表現を理解させる。	教師用絵カード (動作)
○【Let' s Talk】得意かどうか聞いてみよう ・ペアになり、得意かどうかを尋ね合う。	・ペア同士で、8種類の動作について“Are you good at~?” “Yes, I am. /No, I' m not.”の表現を使いながら尋ね合わせる。 ・活動の前に予想をさせるとよい。	教師用絵カード (動作)
○【Let' s Chant】 “Who is your hero?” P.67 ・チャンツを繰り返し聞いたり言ったりする。	・聞こえた語を児童と確認してから、一緒にチャンツを言う。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters (ワークシート Unit9-6) 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・デジタル教材でアルファベットジングルを聞かせ、最初のアルファベット小文字を書くよう指示する。 ・形や高さに注意させる。	デジタル教材 ワークシート (Unit 9-6)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・得意なことの表し方がわかり、伝え合おうとしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード分析〉

1-単元 13

Who is hero ? 2/5 時間

目 標 第三者のできることや得意なことを聞いたり言ったりできる。

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード (動作), デジタル教材, ワークシート (Unit 9-7), 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Listen 2】P.68 ・音声を聞いて、登場人物とその家族が得意なことやできることのイラストを線で結ぶ。	・視聴する前に、登場人物について “Who is he (she) ?” と尋ね、brother/sister/grandfather/pet という語彙を確認しておく。 ・得意なことは1つではないが、まず1つずつ聞き取らせ2回目は通して聞かせるのもよい。	児童用テキスト デジタル教材
○【Who is he/she?】どの先生かな? ・指導者の紹介するヒントを聞いて、どの先生のことを言っているのかを当てる。	・校内の先生について、できることやできないこと、得意なことを含めて紹介し、それが誰のことなのかクイズ形式で当てさせる。 ・既習の“He (She) can～.”の表現を使うようにする。	教師用絵カード (動作)
○【Let's Play 1】P.71 ・ペアで誌面の絵をヒントに、できるだけ質問をして相手のことを知る。	・絵カードで表現を確認する。 ・“Can you～?”という質問に対して、相手が“No, I can't.”と答えたら、質問者を交代するように言う。 ・時間内にたくさん質問をして、相手のできることを見つけるように言う。 ・相手のできることはイラストに○をつけ、次の活動で使うこと指示する。	児童用テキスト 教師用絵カード (動作)
○【Let's Play 2】P.71 ・他のペアにLet's Play 1で得た情報を元に he/she can～. で紹介する。	・Let's Play 1で聞き取ったペアのできることを別のペアに伝えさせる。 “He/She can～.”と“He/She is good at～.”の表現を使うようにさせる。	児童用テキスト
○【Let's Chant】 “Who is your hero?” P.67 ・チャンツを繰り返し聞いたり言ったりする。	・児童の実態によりスピードを選び、一緒にチャンツを言う。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」(ワークシート Unit9-7) ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・デジタル教材でアルファベットジングルを聞かせ、最初のアルファベット小文字を書くよう指示する。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート (Unit 9-7)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・第三者について紹介する表現を聞き、指導者を真似て言うことができる。【慣】〈行動観察〉
- ・第三者についてできることや得意なことを伝え合おうとしている。【コ】〈行動観察・振り返りカード分析〉

目 標 自分や第三者のできることや得意なことについて、聞いたり言ったりすることができる。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（動作）、デジタル教材、ワークシート（Unit 9-8）、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○【Small Talk】好きな有名人	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・好きな有名人の得意なことについて自分の意見を含めて話す。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let' s Listen 3】P.69 ・音声を聞いて、スポーツ選手について聞き取ったことを記入する。	・写真にあるスポーツ選手が誰か確認してから視聴させる。 ・答え合わせの際には、言えそうなところを音声に続けて指導者と一緒に言うよう促す。	児童用テキスト デジタル教材
○【Activity 1】P.69 ・自分ができること、得意なことを含めてペアで伝え合い、その内容を誌面に記入する。 ・誌面に記入したペアの相手のことについて、別の友達と伝え合う。	・自分のできることや得意なことを考えさせ、表現の仕方を練習する。 ・1人目のペアでできることや得意なことを紹介し合い、テキストに記入する。“I can ～.” ・得た情報を元に、2人目のペアに伝え、聞いたことを記入する。“He/She can ～.”	教師用絵カード （動作）
○【Let' s Chant】 “Who is your hero?” P.67 ・チャンツを繰り返し聞いたり言ったりする。	・児童の実態によりスピードを選び、一緒にチャンツを言う。	教師用絵カード （教科）
○Sounds and Letters （ワークシート Unit9-8） 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・デジタル教材でアルファベットジングルを聞かせ、最初のアルファベット小文字を書くよう指示する。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート （Unit 9-8）
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

- ・第三者のできることや得意なことについて聞き取ることができる。【慣】〈行動観察・振り返りカード分析〉
- ・自分のできることや得意なことについて伝え、相手や第三者について聞こうとしている。【コ】

〈行動観察・振り返りカード分析〉

1ー単元 13

Who is hero ? 4/5 時間

目 標 あこがれの人の話を聞き、その人のできることや得意なことがわかる。

準 備 児童用テキスト, 教師用絵カード (動作・形容詞), デジタル教材, ワークシート (Unit 9-9), 振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。 ○【Small Talk】あこがれの人	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・あこがれの人について自分の意見も含めて話す。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let's Listen 4】P.70 ・先生の大切な人やあこがれの人について聞き、分かったことを書く。	・Small Talk で先生が話したあこがれの人 (または AET のあこがれの人) について再度聞き、分かったことをテキストに書く。	児童用テキスト デジタル教材
○【Let's Listen 5】P.70 ・登場人物の紹介を聞き、分かったことをメモに取り全体で共有する。	・視聴する前に、形容詞の表現 (active, cool, fantastic, friendly, gentle, kind, brave, funny, strong, tough) について確認する。 ・1 回目は通して聞かせ、2 回目は一文ずつ区切りながら聞かせる。	教師用絵カード (形容詞)
○【Activity 2】P.72 ・登場人物が自分のヒーローについて紹介する音声を聞き、内容を理解する。 ・自分のヒーローを紹介する練習をする。	・テキストの誌面を見せずに、デジタル教材で音声のみ聞かせる。 ・内容について確認するための質問をする。 Who is Yumi's hero ? How old is she ? What can she do ? What is she good at ? ・やりとりが終わったら、テキスト P.72 の文をデジタル教材の後から一緒に読む。 ・次時で自分のヒーローを紹介することを伝え、テキストの例を参考に練習をする。	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters 「アルファベットの小文字を書こう。」 (ワークシート Unit 9-9) ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・デジタル教材でアルファベットジングルを聞かせ、最初のアルファベット小文字を書くよう指示する。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート (Unit 9-9)
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・あこがれの人の話を聞き、できることや得意なことなど、どのような人か分かっている。【慣】

<行動観察・振り返りカード分析>

1ー単元 13

Who is hero ? 5/5 時間

目 標 他者に配慮しながら、自分のあこがれの人について、自分の意見を含めて伝えようとしている。

準 備 児童用テキスト、教師用絵カード（動作・形容詞）、デジタル教材、ワークシート（Unit 9-10）、振り返りカード

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・本時のめあてと流れを児童と確認する。	
○【Let' s Chant】 “Who is your hero?” P. 67	・児童の実態に合わせて、スピードを替えたり、パートに分かれて言わせたりするなどバリエーションをつけて楽しく取り組ませる。	デジタル教材
○【Activity 2】 P. 72 ・グループ内で自分のヒーローについて発表する。	・グループ内で自分のヒーローを紹介する。 ・聞いている児童は、聞き取れたことをメモしたり、話者の良かった点を記入したりする。 ・グループ代表を決め、全体の前で発表し、良かった点を共有する。	教師用絵カード （動作・形容詞）
○【STORY TIME】 ・読み聞かせに合わせて、セリフや繰り返し音声で慣れ親しんだ文と一緒に読む。	・児童への質問を交えながら読み聞かせを行う	児童用テキスト デジタル教材
○Sounds and Letters （ワークシート Unit 9-10） 「アルファベットの小文字を書こう。」 ・小文字の書き方を知り、形や高さに注意しながらワークシートに書く。	・デジタル教材でアルファベットジングルを聞かせ、最初のアルファベット小文字を書くよう指示する。 ・形や高さに注意させる。	ワークシート （Unit 9-10）
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

・他者に配慮しながら、自分のあこがれの人について、自分の意見を含めて伝えようとしている。【コ】

〈行動観察・振り返りカード分析〉

Who is your hero ?

Class _____ Name _____

This is my hero.

She (He) is my sister(brother), Kayo.

She (He) can play the flute well.

She (He) is good at playing the piano.

She(He) is cool.

She(He) is my hero.

2019 年度 那覇市小学校外国語活動 指導案例集

2019 年度カリキュラム作成委員 教諭

所 属	氏 名	所 属	氏 名
真和志小学校	新城 秀樹	壺屋小学校	ウィルキンソン麻子
真地小学校	山里 莉央	天久小学校	岸本 綾乃
銘苅小学校	武村 美香	石嶺小学校	亀川 智洋
若狭小学校	與那覇 綾子		

那覇市教育委員会 指導主事	名嘉 めぐみ
那覇市立教育研究所 指導主事	金城 里子